LIXIL

テグラン　門袖 C型　取付説明書

●このたびは、当社製品をお買いあげいただきましてまことにありがとうございます。
●この取付説明書に示した表示記号の内容は、製品を安全に正しく施工していただき、施主様等の危害や損害を未然に防止するためのものです。
表示記号の内容を良く理解したうえで、本書の内容（指示）にしたがってください。
●この取付説明書では、次のような記号を使用しています。

安全に関する記号	記号の意味
警告	●取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負うおそれのある内容を示しています。
注意	●取扱いを誤った場合に、使用者が中・軽傷を負うおそれのある内容、または物的損害のおそれがある内容を示しています。
一般情報に関する記号	
ポイント	●取付手順で、特に注意して作業をしていただきたいことを示しています。 ●守っていただかないと組付けができない内容、または製品全体に後々不具合が発生するおそれのある内容を示しています。
※	●取付説明の内容全体（個々の説明枠）にかかる注意事項を示しています。 ●取付説明の内容に制限がある場合の条件を示しています。
補足	●説明の内容で知っておくと便利なことを示しています。

※製品破損、倒壊による人への危害・物的損害が想定されますので、下記事項をお守りください。

＜施工の前に＞

注意

●製品の施工には、危険を伴う場合がありますので、必ず専門の工事業者による施工をお願いします。
●シーリング材（変成シリコーン系指定、例：セメダインPOSシール、コニシボンド変成シリコンコーク）は、現場手配してください。

ポイント

●正しく施工、組付けをするために、施工前に必ず取付説明書をお読みください。
●製品の施工については、必ず取付説明書にしたがってください。
●施工終了後、取扱説明書は施主様にお渡しください。
●梱包明細表で必要な部材、部品が揃っているか確認してください。

＜施工上のご注意＞

注意

●施工工事の担当範囲に未施工箇所がないことを十分に確認したうえで、取付説明書を次行程の担当者に渡してください。
●ボルト, ネジは弊社純正品の規定本数を確実に締付け、固定してください。
●アルミ製品が異種金属と接触する場合は、絶縁処理をしてください。
●製品の改造は絶対にしないでください。
●施工終了後は、ボルト, ネジなどにゆるみがないか確認してください。
●製品の強度低下、またはケガの原因になりますので、ボルト、ネジは弊社純正品の規定本数を使い、下記の推奨締付けトルクで固定した後にゆるみがないか確認してください。
・φ4ネジ：1.5N･m
・φ5ネジ：3.0N･m

＜施工上のご注意 つづき＞

ポイント

●施工工事にあたっては、安全に施工を行なってください。
・作業服および保護具（保護帽、安全帯、眼、手、足の保護具）を正しく使用してください。
・作業場所の整理整頓を行なうとともに、安全確保を行なってください。
特に高所作業での安全確保、倒壊防止、照明による照度の確保など。
・器具、工具、保護具などの機能を確認し、使用してください。
・作業は、相互の作業と各作業工程を考慮して進めてください。免許、技能講習、特別教育が必要な作業は、有資格者が行なってください。
・作業者が相互に安全確認を行なってください。健康状態を十分に確認し、健康管理を実施してください。
・万が一、事故が発生した際には、直ちに手当を行ない、救助を第一に心がけてください。
●取付説明書の順序通りに組付けてください。製品の強度など、性能が低下する場合があります。
●施工中についた汚れは取除き、誤ってキズをつけた場合は補修塗料で補修してください。

＜基礎工事についてのご注意＞

注 意

●基礎は弊社指定の寸法以上にしてください。強度低下の原因になります。
●寒冷地で凍上するおそれのある地域で使用する場合は、凍上線の下まで基礎を設けてください。強度低下の原因になります。
●養生期間は十分にとり、その間に重い物をのせたり、振動を与えないでください。

ポイント

●モルタルやコンクリートの抽出液が、施工中に製品に付着しないように注意してください。抽出液は強アルカリ性で、シミやムラなどの外観不良の原因になります。
●製品の表面に付着したモルタルやコンクリートなどは、速やかに拭き取ってください。
●コンクリート（またはモルタル）には、塩分を含む砂（海砂）および塩素系や強アルカリ系のコンクリート用混和剤（凍結防止剤、凝固促進剤、急結剤など）は使用しないでください。使用するとアルミなどの金属が腐食する原因になります。必要な場合は非塩素系や非アルカリ系の混和剤をご使用ください。

＜仕上げ材（タイル）施工のご注意＞

警 告

●モルタルにてタイル張りする「モルタル張り工法」は絶対に行なわないでください。はく離や脱落してケガに至るおそれがあります。またヒビ割れが発生することにより、躯体内部に雨水が浸入して躯体を劣化させるおそれがあります。

注 意

●本工事は、専用乾式下地に専用タイルを専用接着剤で張付ける「接着剤張り工法」を採用しています。この工法以外では仕上げ材施工を行なわないでください。
●取付説明書の順序通りに施工してください。所定の性能が得られないだけでなく、はく離や脱落してケガに至る場合があります。

ポイント

●正しく施工していただくため、施工前に必ず取付説明書をお読みください。
●施工にあたっては、必ず使用する材料に付属する注意書きや取付説明書にしたがってください。
●施工終了後、取扱説明書は施主様にお渡しください。

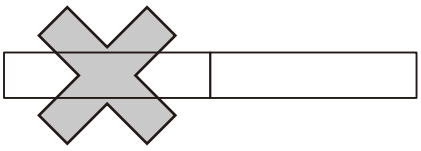
INDEX

1　施工前の重要確認事項…… 4
　1. テグラン門袖の施工条件…… 4
　2. 下地ボードの取扱いについて…… 4
2　梱包明細表…… 5
3　各部の名称と基本寸法…… 8
　1. 各部の名称…… 8
　2. 基本寸法…… 10
　3. 基礎寸法…… 11
4　配線工事…… 11
5　本体の施工…… 12
　1. 柱建込み前の準備…… 12
　2. 柱の建込み…… 15
　3. 門柱の建込み…… 16
　4. 基礎の施工…… 17
　5. ポストの取付け…… 17
　6. 下地ボードの取付け…… 18
　7. 調整金具の取付け…… 19
　8. 片開き受け部材の取付け…… 25
　9. サインの取付け…… 26
　10. 表札灯の取付け オプション …… 28
　11. インターホンの取付け…… 29
　12. 機能柱カバーの取付け…… 30
　13. 笠木の取付け…… 31
6　仕上げの施工：タイル仕上げ…… 32
　1. 梱包明細表…… 32
　2. 施工フロー…… 34
　3. 施工面の確認…… 35
　4. ジョイントテープの貼付け…… 36
　5. タイルの割付確認…… 37
　6. タイルの張付け…… 37
　7. 目地詰め…… 42
　8. 点検・仕上げ…… 43
　9. タイル割付図…… 44
7　仕上げの施工:塗り仕上げ…… 48
8　門扉の吊込み…… 50

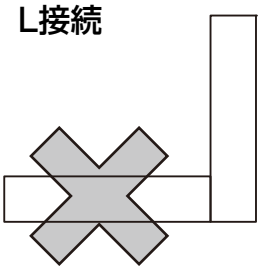
1　施工前の重要確認事項 ※施工時には下記の事項を厳守してください。

1. テグラン門袖の施工条件 ※下記に示す場合は、施工できません。

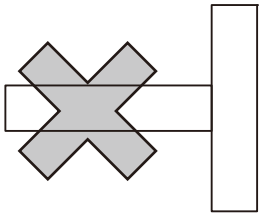
1-1　直線接続



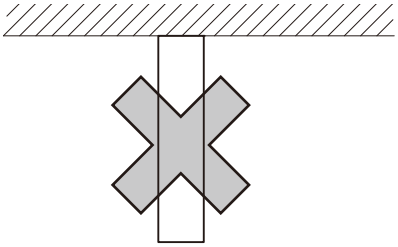
1-2　L接続



1-3　T接続



1-4　躯体（住宅）接続



2. 下地ボードの取扱いについて

2-1　保管のしかた

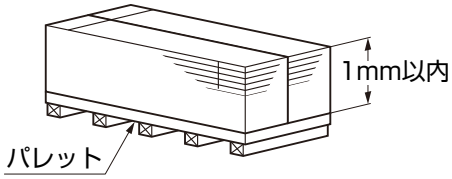


図2-1　パレット積みの場合

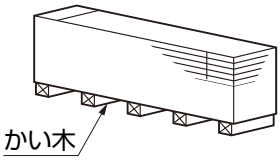


図2-2　パレット積みでない場合

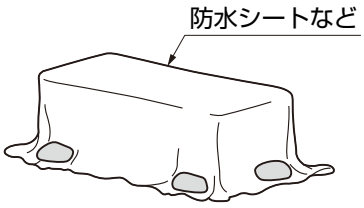
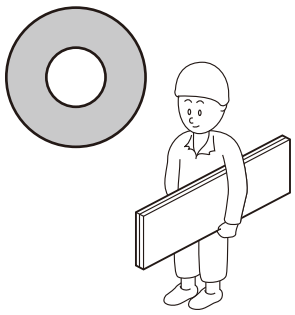


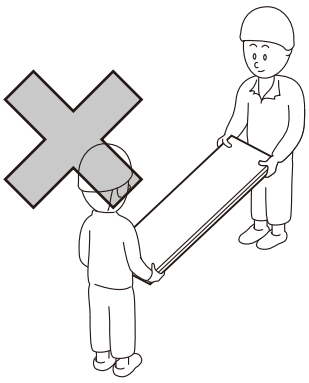
図2-3　屋外保管する場合

ポイント

- 必ずパレットの上に置き、屋内で保管してください。やむを得ずパレットの上に置けない場合には、角材を5本以上をかい木にし、不陸のないよう水平に置いてください。
- 施工現場でやむを得ず屋外に保管する場合は、防水シート、その他適当なものでおおい、雨や飛沫のかからないように保護してください。
- 積み重ねの高さは1メートル以内にしてください。

2-2　運びかた





注 意

- 開梱後、板の持ち運びは木端立てにして運んでください。
- 水平に持つことや、板の両端を持って吊るすような運び方は避けてください。
- PPバンドを持って運ぶことは絶対に避けてください。

B079_201405A

2　梱包明細表

【1】C型セット

名　　称	略　図	員　数	
		内蔵	面付
150角柱　インターホン内蔵		1	–
150角柱　インターホン面付		–	1
50×90柱		1	1
笠木20		1	1
笠木ベース C型		1	1
巾木B 機能門柱用		左右各1	左右各1
巾木B 端部用		1	1
縦胴縁F 機能門柱用		1	1
笠木20端部キャップ		2	2
通気キャップ		1	1
【1-1】M3.8×25フレキネジ		24	24
【1-2】M5六角ナット		2	2
【1-3】M5×20十字穴付 六角ボルト座金組込（PW+SW）		4	4
【1-4】φ4×13ナベドリルネジ		13	13
【1-5】φ4×16サラドリルネジ		4	4
【1-6】φ4×15ナベタッピンネジ2種		4	4
取扱説明書<UB013>	–	1	1
取付説明書<B079>	–	1	1

【2】150角用カバーセット

名　　称	略　図	員　数	
		門柱機能なし	門柱機能あり
150角柱カバー		1	1
切欠きカバー		–	2

【3】下地ボードセット

名　　称	略　図	員　数
サイディングボード		1

【4】スリム縦型ポスト

名　　称	略　図	員　数	
		プッシュ錠付き	錠なし
ポスト本体 プッシュ錠付き		1	–
ポスト本体 錠なし		–	1
取付説明書<A460>	–	1	1
取扱説明書<UA172>	–	1	1

【5】調整金具セット

名　　称	略　図	員 数
調整金具本体		2
シャフト用ワッシャー		2
【5-1】M5×12トラス小ネジ D=10		4

【6】調整金具取付部品

名　　称	略　図	員数
調整金具施工治具		1
【6-1】φ5×12トラスタッピンネジ3種 D=10		8

【7】インターホンカバーセット

名　　称	略　図	員　数
ドアホンカバー		1
ドアホンカバー取付金具		1
ドアホン固定金具		1
【7-1】φ4×16トラスタッピンネジ3種 D=8		1
【7-2】φ4×12トラスタッピンネジ3種 D=8		1
【7-3】M4×40トラス小ネジ D=8		2

【8】120角門柱セット

名　　称	略　図	員数
120角門柱		1
巾木120角用		1
【8-1】φ4×13ナベドリルネジ		1

【9】調整金具ピースカバー 120角門柱用 下地セット

名　　称	略　図	員数
ピースカバー用下地		1
ピースカバー下地用キャップ		1
【9-1】φ4×25ナベドリルネジ		9
【9-2】φ4×15サラタッピンネジ2種		2

【10】調整金具ピースカバー 120角門柱用 カバーセット

名　　称	略　図	員数
調整金具ピースカバー		2
調整金具ピースカバー受け		2
【10-1】φ4×13ナベドリルネジ		8

【11】調整金具カバーセット

名　　称	略　図	員数
調整金具カバー		1
調整金具切欠きカバー		2
門柱カバー端部キャップ		左右各1
【11-1】φ4×13ナベドリルネジ		4

【12】笠木20セット 120角門柱用

名　　称	略　図	員数
笠木20		1
笠木ベース		1
【12-1】φ4×15ナベタッピンネジ2種		2

【13】笠木20端部キャップセット 120角門柱用

名　　称	略　図	
笠木20端部キャップ		2

【14】片開き受け部材セット

名　　称	略　図	員数
片開き受け部材		1
錠受け部材		1
片受け部材上下キャップ（上）		1
片受け部材上下キャップ（下）		1
受け部材カバー		1
【14-1】φ4×10トラスタッピンネジ3種		2
【14-2】φ4×19ナベドリルネジ		8
【14-3】φ5×30サラタッピンネジ3種		2

【15】サイン(ガラスサイン･鋳物サイン･ステンレスサイン)

名　　称	略　図	員　数			
		ガラスサイン	鋳物サイン	ステンレスサイン	ガラスサイン(特注)
ガラスサイン		1	−	−	1
鋳物サイン		−	1	−	−
ステンレスサイン		−	−	1	−
ネームシール	AAAABB CCDDEEF GGHHHIII JKKLMM NNOOOP QRRSST TUUVWW XYYZ	2（※）	1	1	−
【15-1】化粧ネジ M4用		4	−	−	4
【15-2】M4×20 ナベ（SW+PW）		4	−	−	4
【15-3】ゴムスペーサー L=6		4	−	−	4
【15-4】M4 ゴムワッシャー		4	−	−	4
【15-5】φ4×6トラス タッピンネジ(D=8) 3種		−	2	−	−
【15-6】M4六角ナット		−	−	4	−

※黒文字と白文字の2種類同梱しています

B079_201405A

【16】サイン(江戸硝子サイン･備前焼サイン)

名　　称	略　　図	員　数	
		江戸硝子サイン(特注)	備前焼サイン(特注)
江戸硝子サイン 150角		1	−
備前焼サイン 145角		−	1
【16-1】化粧ネジ M4用		−	4
【16-2】化粧ネジ M6用		4	−
【16-3】M6高ナット L=15		4	−
【16-4】M6ゴムワッシャー		8	−
【16-5】M4全ネジ L=25		−	4
【16-6】M6全ネジ L=40		4	−
【16-7】M4六角ナット		−	4
【16-8】M6六角ナット		4	−

【17】表札灯セット

名　　称	略　図	員　数
表札灯		1
表札灯パッキン		1
【17-1】φ4×12トラスタッピンネジ3種 D=8		2

【18】ベースプレート 150角用セット

名　　称	略　図	員　数
ベースプレートスリーブ 150角用		1
ベースプレート		1
【18-1】六角ボルトM10×25		4
【18-2】φ4×16ナベドリルネジ		4
【18-3】φ5×55サラタッピンネジ2種		4
【18-4】グリップアンカー		4
【18-5】M10バネ座金		4
【18-6】M10平座金		4

【19】ベースプレート　50×90用

名　　称	略　図	員数
ベースプレートスリーブ50×90用		1
ベースプレート		1
【19-1】六角ボルトM10×25		4
【19-2】φ4×16ナベドリルネジ		4
【19-3】φ5×55サラタッピンネジ2種		4
【19-4】グリップアンカー		4
【19-5】M10バネ座金		4
【19-6】M10平座金		4

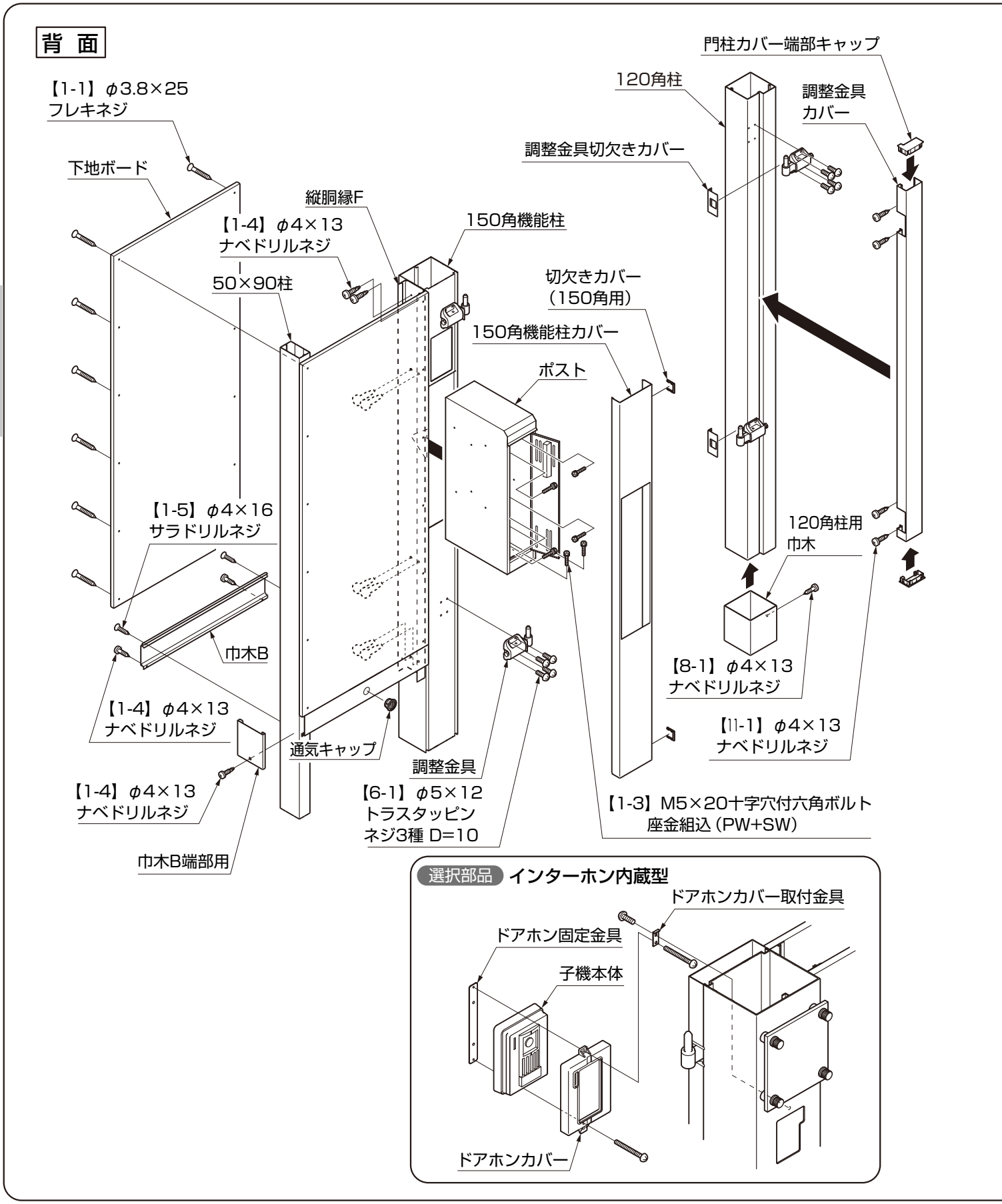
【20】小口シーラー（VKSY2）（※）

名　　称	略　図	員数
小口シーラー（VKSY2）		1

※下地ボードを現場切断した場合は、かならず切断面に塗付してください。

3　各部の名称と基本寸法

1. 各部の名称



前 面

笠木20

【1-6】φ4×15
ナベタッピンネジ2種

笠木キャップ

笠木ベース

【12-1】φ4×15
ナベタッピン
ネジ2種

サイン各種

子機本体

インターホン付属ネジ

ベース

門柱

オプション 表札灯

表札灯本体

DC12V出力線コネクタ付き
(表札灯配線)

パッキン

取付ベース

アクリルカバー

施工手順

1. 柱建込み前の準備 P.12 参照

2. 柱の建込み P.15 参照

3. 門柱の建込み P.16 参照
※門柱仕様の場合の作業です。

4. 基礎の施工 P.17 参照

5. ポストの取付け P.17 参照

6. 下地ボードの取付け P.18 参照

7. 調整金具の取付け P.19 参照
※門柱仕様の場合の作業です。

8. 片開き受け部材の取付け P.25 参照
※門柱仕様 片開き門扉の場合の作業です。

9. サインの取付け P.26 参照

10. 表札灯の取付け P.28 参照

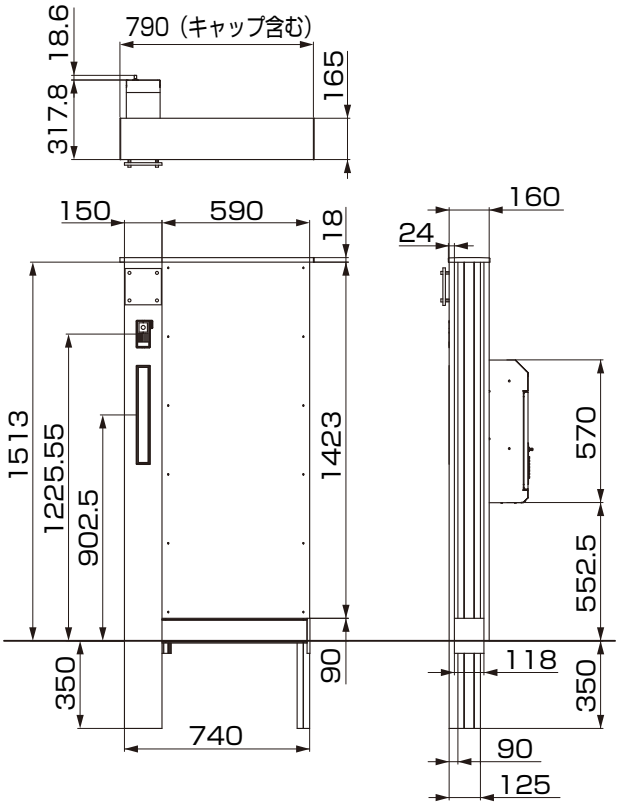
11. インターホンの取付け P.29 参照

12. 機能柱カバーの取付け P.30 参照

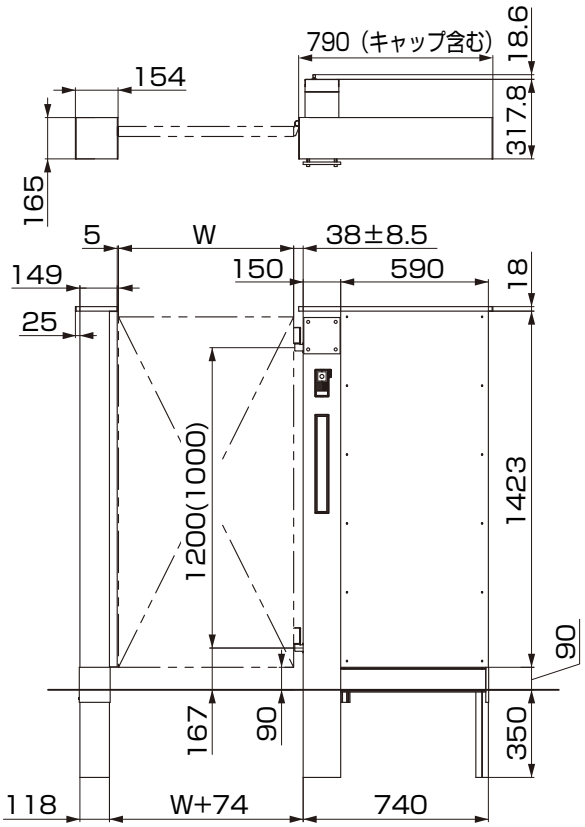
13. 笠木の取付け P.31 参照

2. 基本寸法

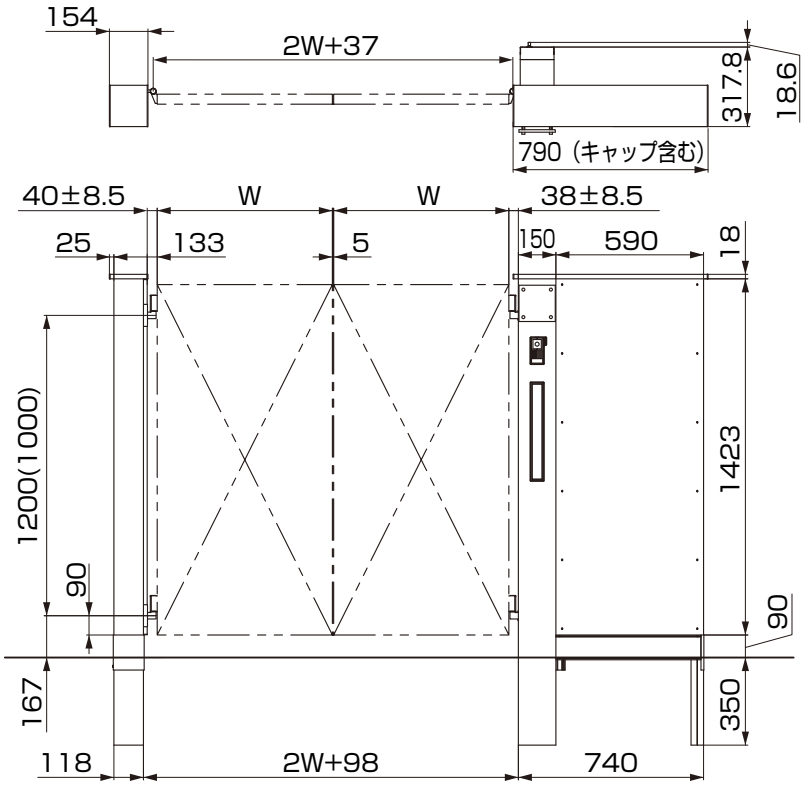
2-1 独立仕様



2-2 門柱仕様 片開き



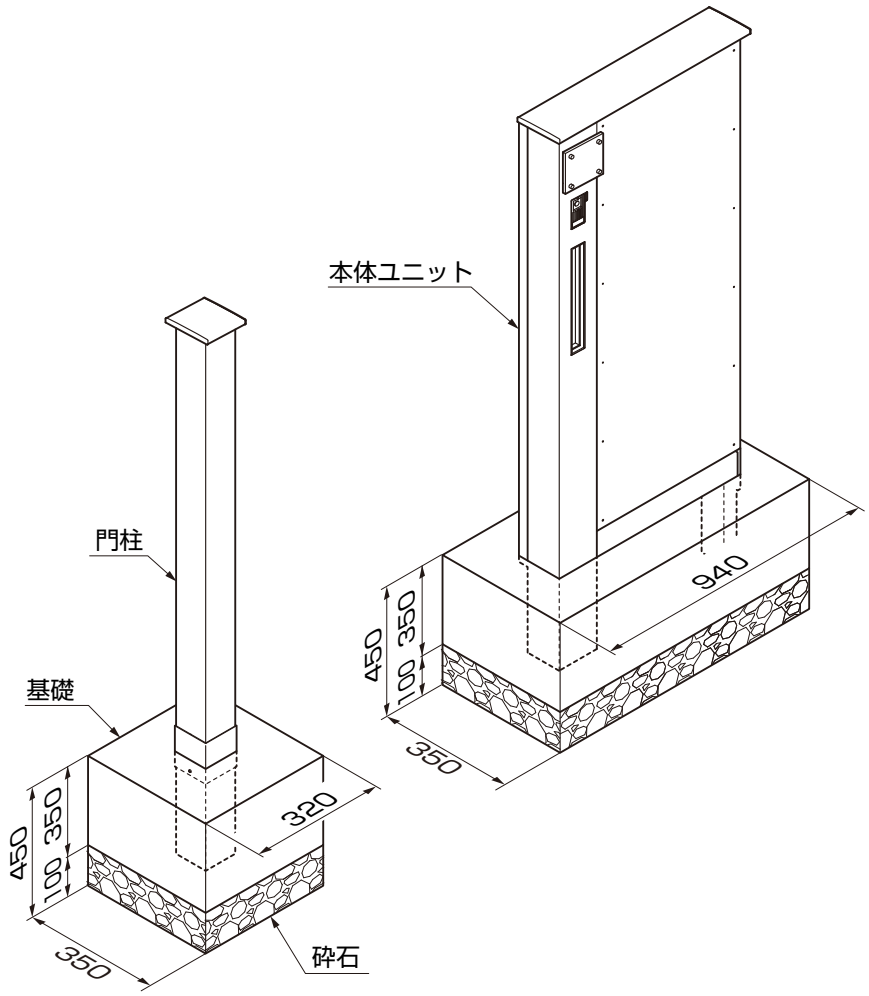
2-3 門柱仕様 両開き



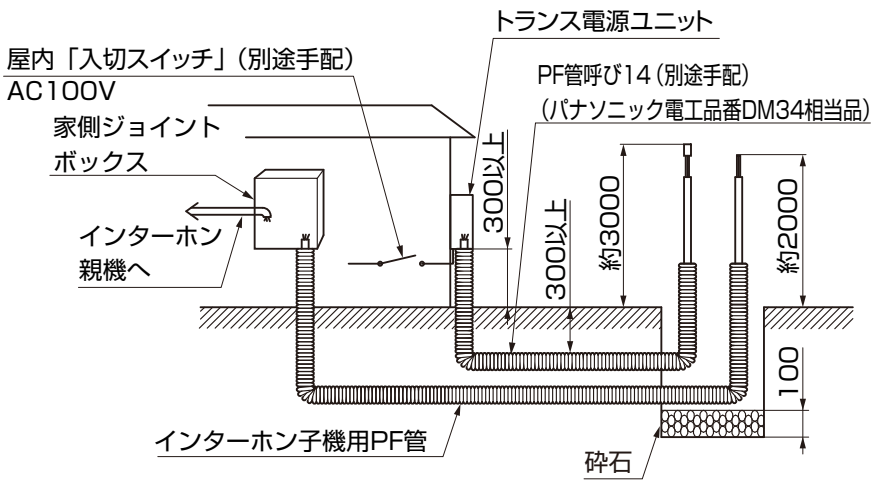
ポイント

●Wの寸法は、取付ける門扉に添付の取付説明書を参照してください。

3. 基礎寸法



4　配線工事



①基礎穴を掘り、砕石を敷いてください。

ポイント

- ●配管はG.L.より100mm程度立上げ、パテ埋めなどの処理を施してください。
- ●照明とインターホン子機用配線は、PF管により隔離してください。
- ●屋内「入切スイッチ」は必ず設けてください。ランプ交換やお手入れの際、夜間照明を消灯したい場合に電源をOFFにできなくなります。

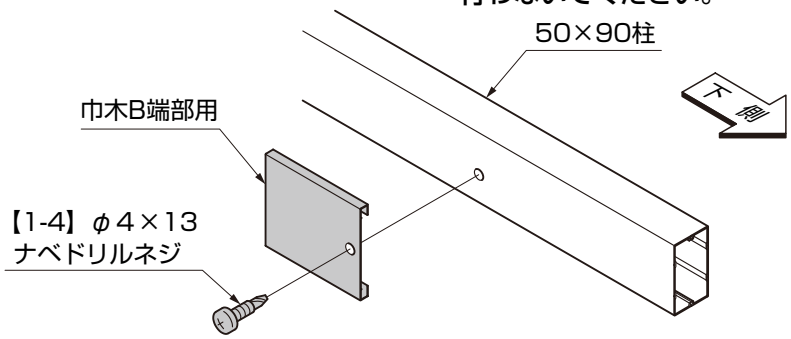
②照明およびインターホン子機用の配線配管をしてください。

5　本体の施工

1. 柱建込み前の準備

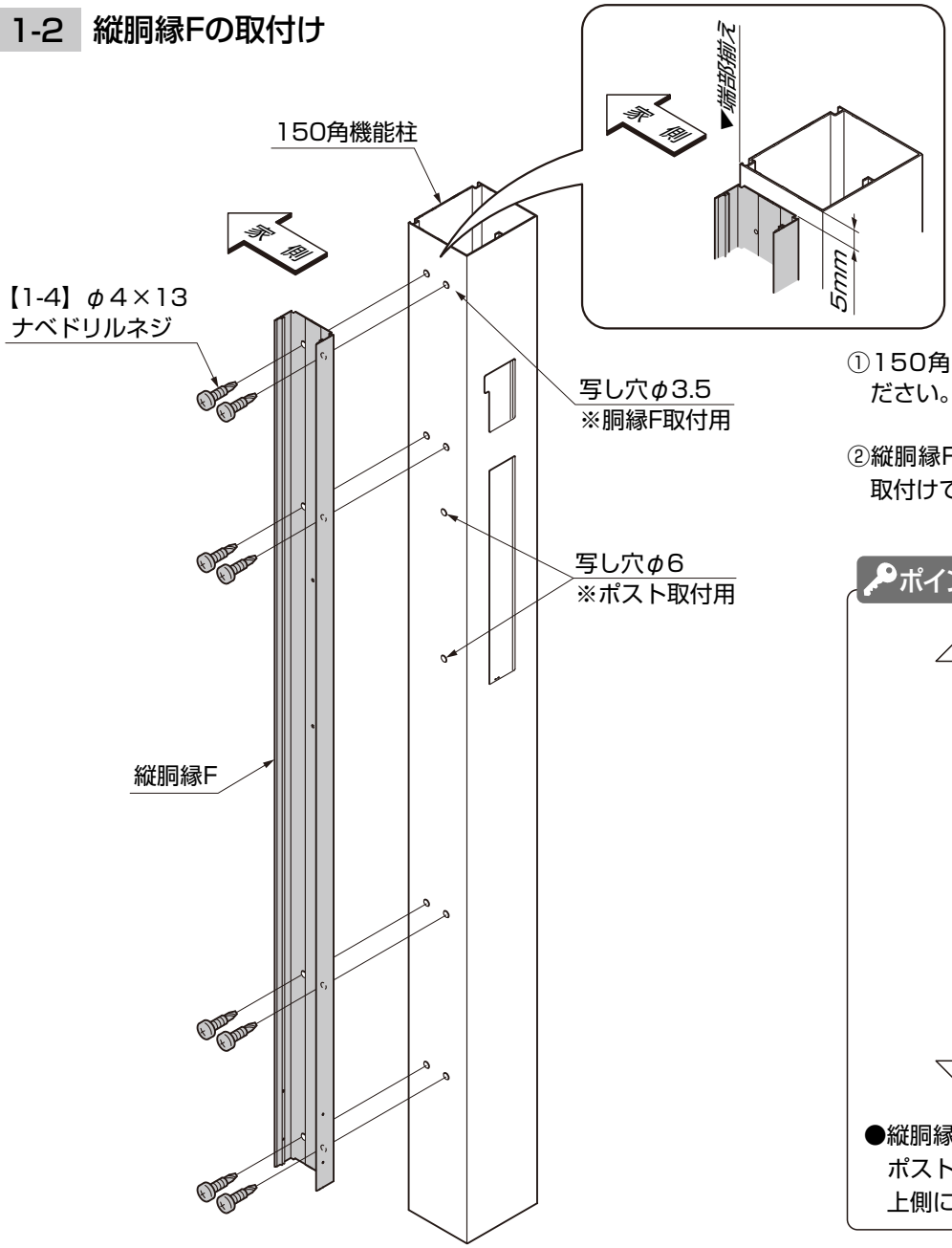
1-1　巾木B 端部用の取付け

※ベースプレート施工の場合、この手順で巾木B端部用の取付けは行わないでください。



①巾木B端部用を50×90柱に【1-4】で取付けてください。

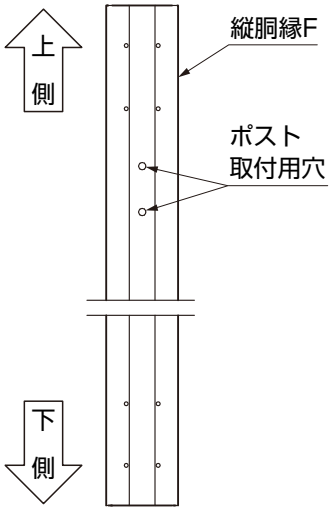
1-2　縦胴縁Fの取付け



①150角機能柱に写し穴加工をしてください。

②縦胴縁Fを150角機能柱に【1-4】で取付けてください。

ポイント

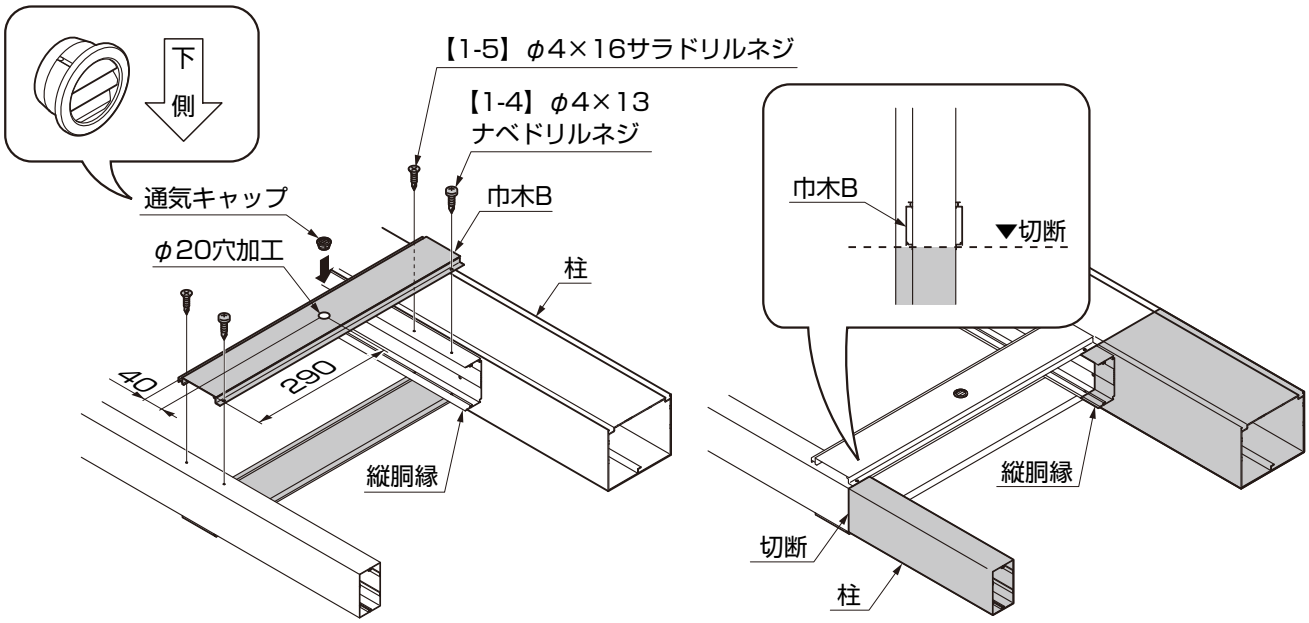


●縦胴縁Fには、上下があります。
ポスト取付用穴があいている側が、上側になります。

1-3 ベースプレートの取付け オプション

※柱をベースプレートを使用して建込む場合の作業です。

（1）巾木Bの取付け

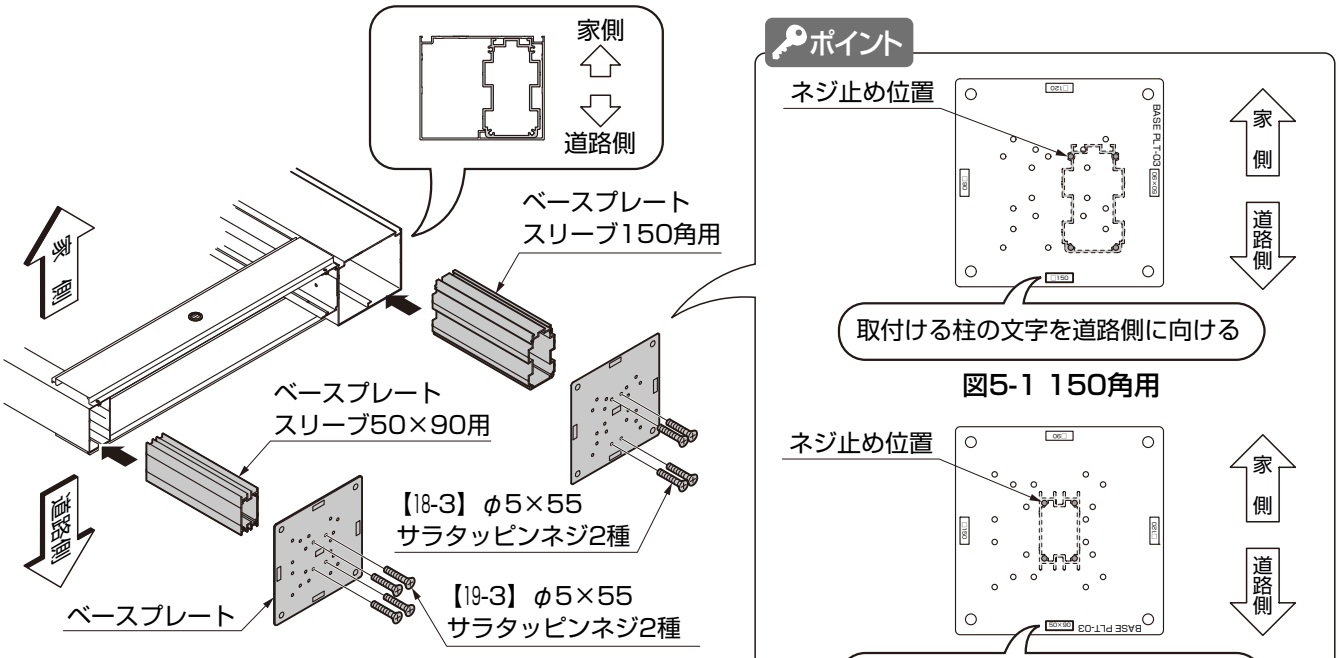


①家側の巾木Bにφ20穴加工をし、通気キャップをはめ込んでください。

②巾木Bを本体ユニットの柱と縦胴縁に【1-4】【1-5】で取付けてください。

③柱と縦胴縁を切断してください。

1-4 ベースプレート取付け



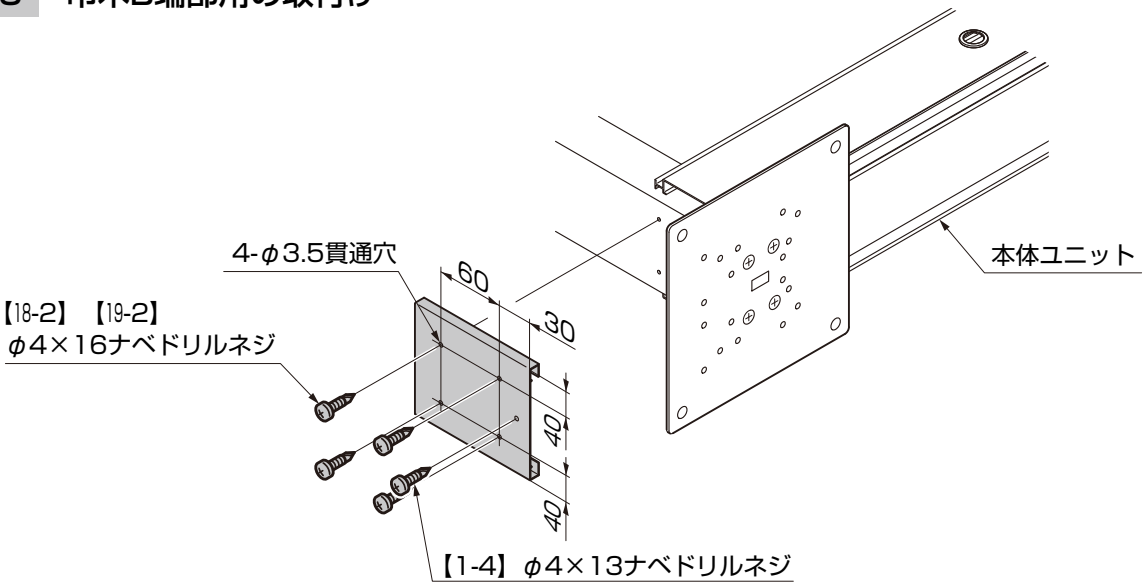
①ベースプレートスリーブとベースプレートを【18-3】【19-3】で固定してください。

②ベースプレートスリーブを本体ユニットの柱に挿入してください。

●取付ける向きを間違えないでください。

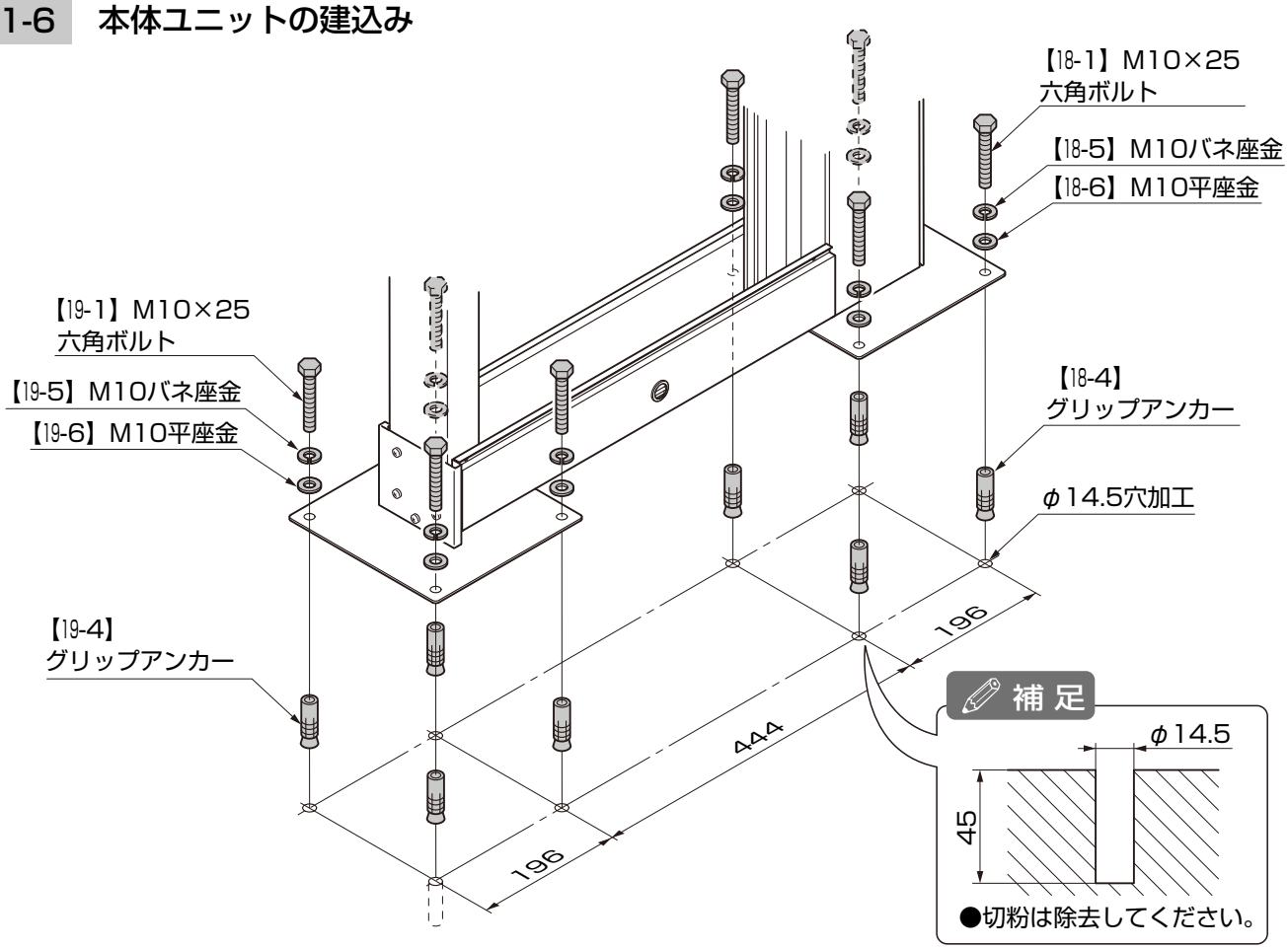
1.（つづき）

1-5　巾木B端部用の取付け



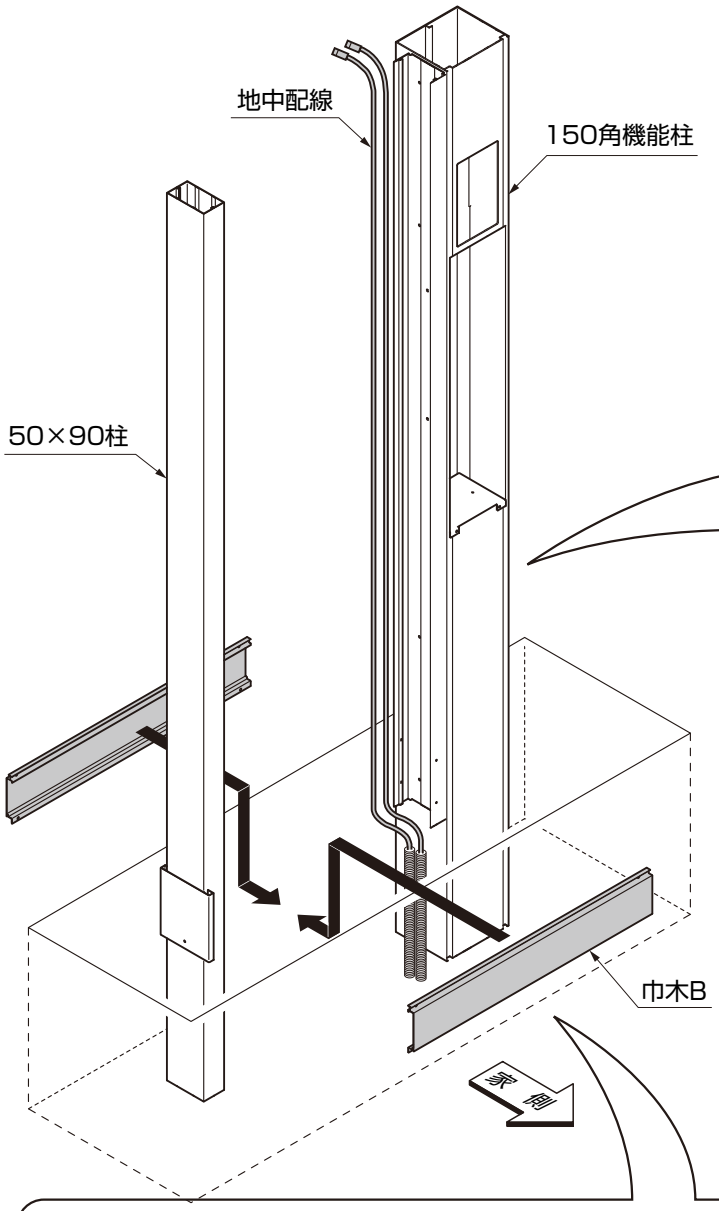
①巾木B端部用を柱にあてがいφ3.5の貫通穴をあけてください。
②巾木B端部用を柱に【18-2】【19-2】【1-4】で取付けてください。

1-6　本体ユニットの建込み



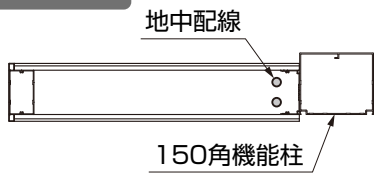
①土間にφ14.5の穴加工をし【18-4】、【19-4】を打ち込んでください。
②本体ユニットを土間に【18-1】、【18-5】、【18-6】、【19-1】、【19-5】、【19-6】で取付けてください。

2. 柱の建込み

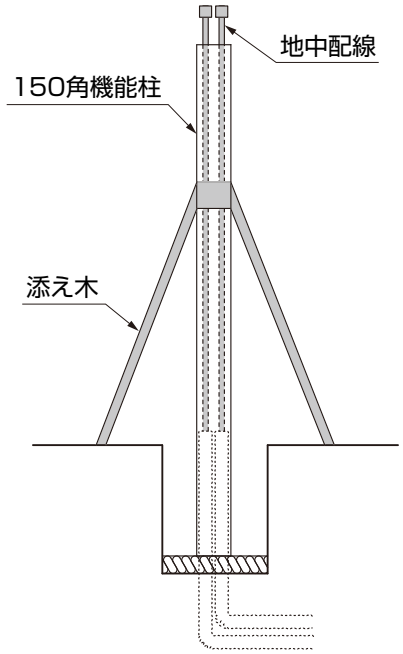


2-1 柱の建込み

ポイント

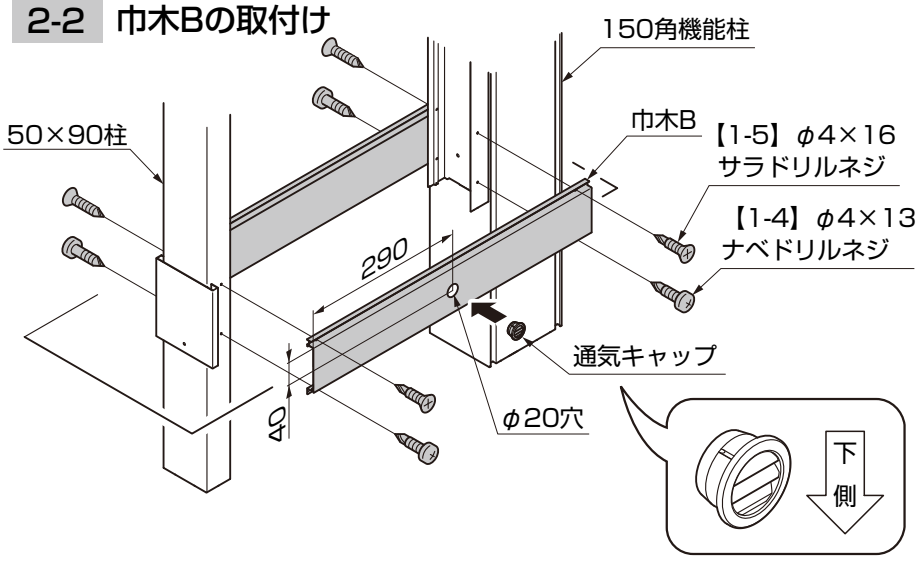


●地中配線は、150角機能柱側に配線してください。



①50×90柱、150角機能柱を基礎穴に建込み、添え木などで仮固定してください。

2-2 巾木Bの取付け

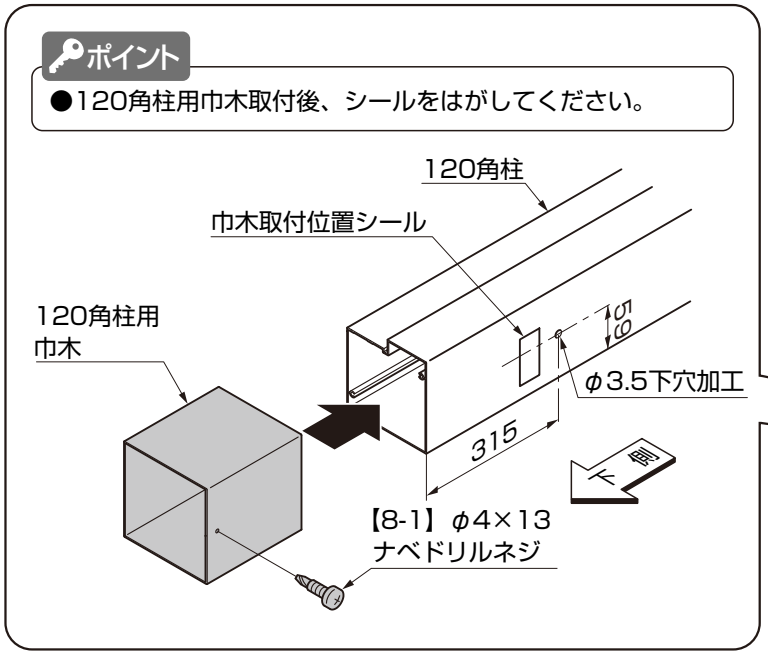


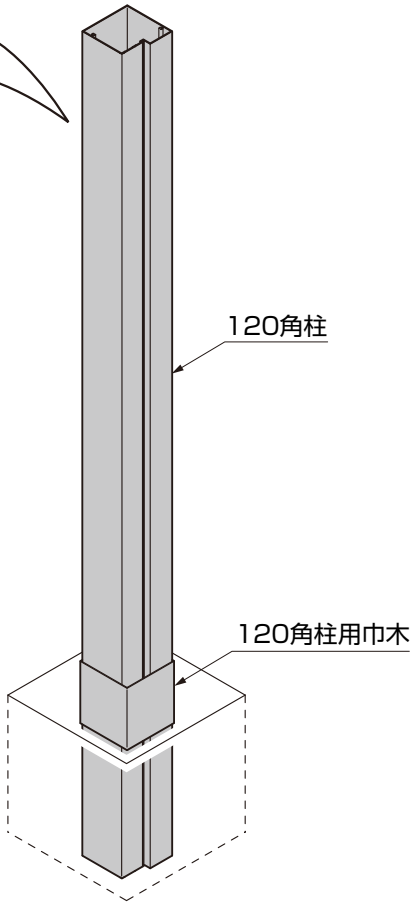
①家側の巾木Bにφ20の穴加工をし、通気キャップの向きを確認してはめ込んでください。
②巾木Bを50×90柱、150角機能柱に【1-5】【1-4】で取付けてください。

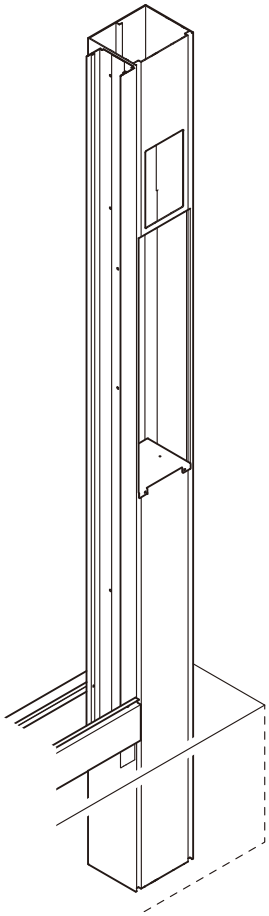
注意

●通気穴を加工しないと、結露などで下地ボードがダメージを受け、タイルや塗材がはく離するおそれがあります。

3. 門柱の建込み ※120角門柱の場合の作業です。



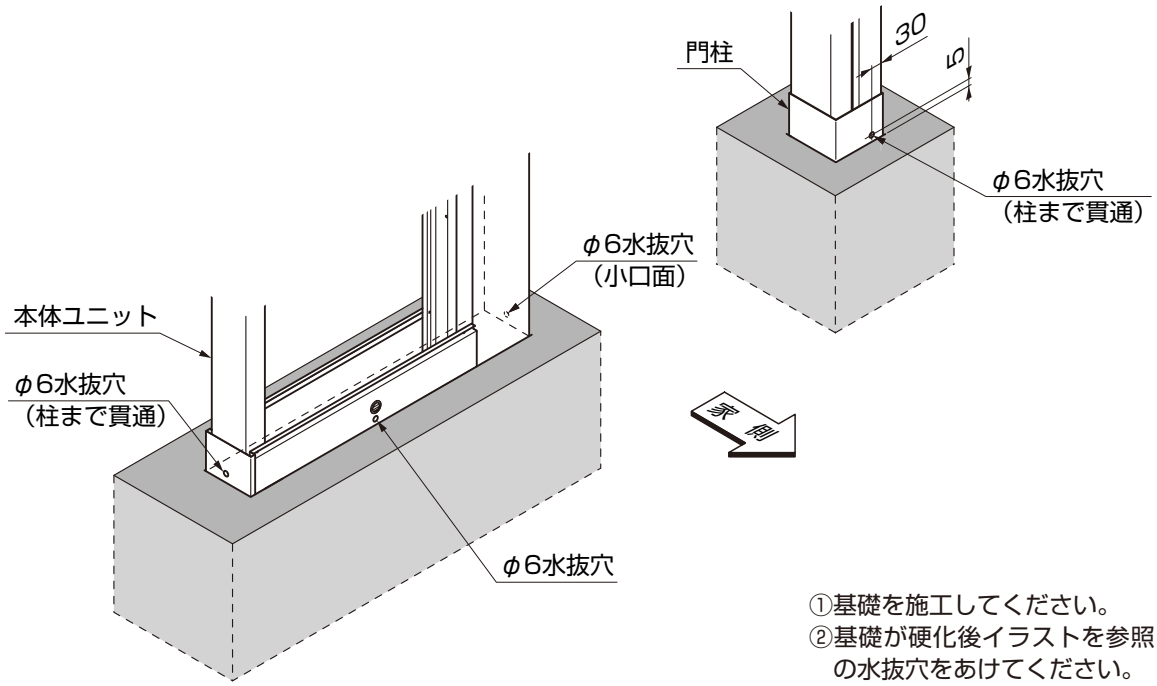




①120角柱にφ3.5の穴加工をしてください。
②120角柱用巾木を120角柱に【8-1】で取付けてください。
③120角柱を基礎穴に建込み、添え木などで仮固定してください。

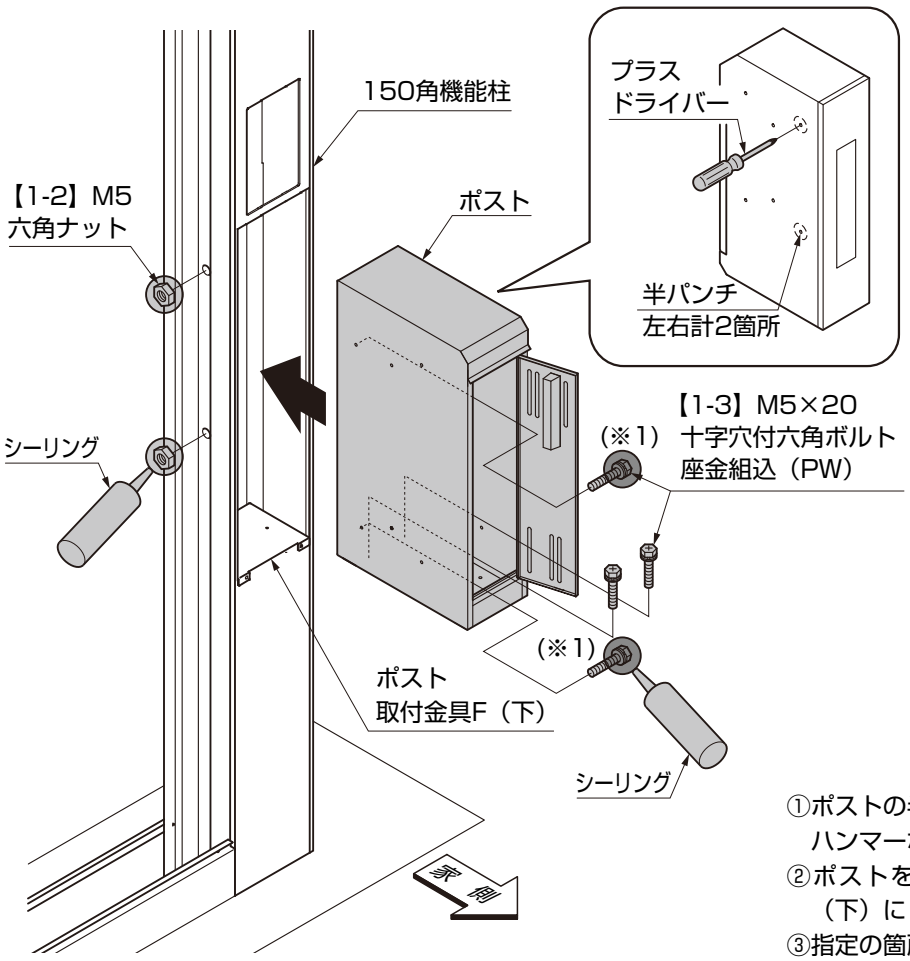
B079_201411B

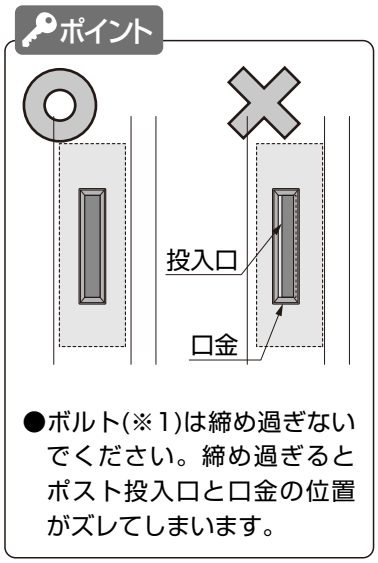
4. 基礎の施工



①基礎を施工してください。
②基礎が硬化後イラストを参照してφ6の水抜穴をあけてください。

5. ポストの取付け

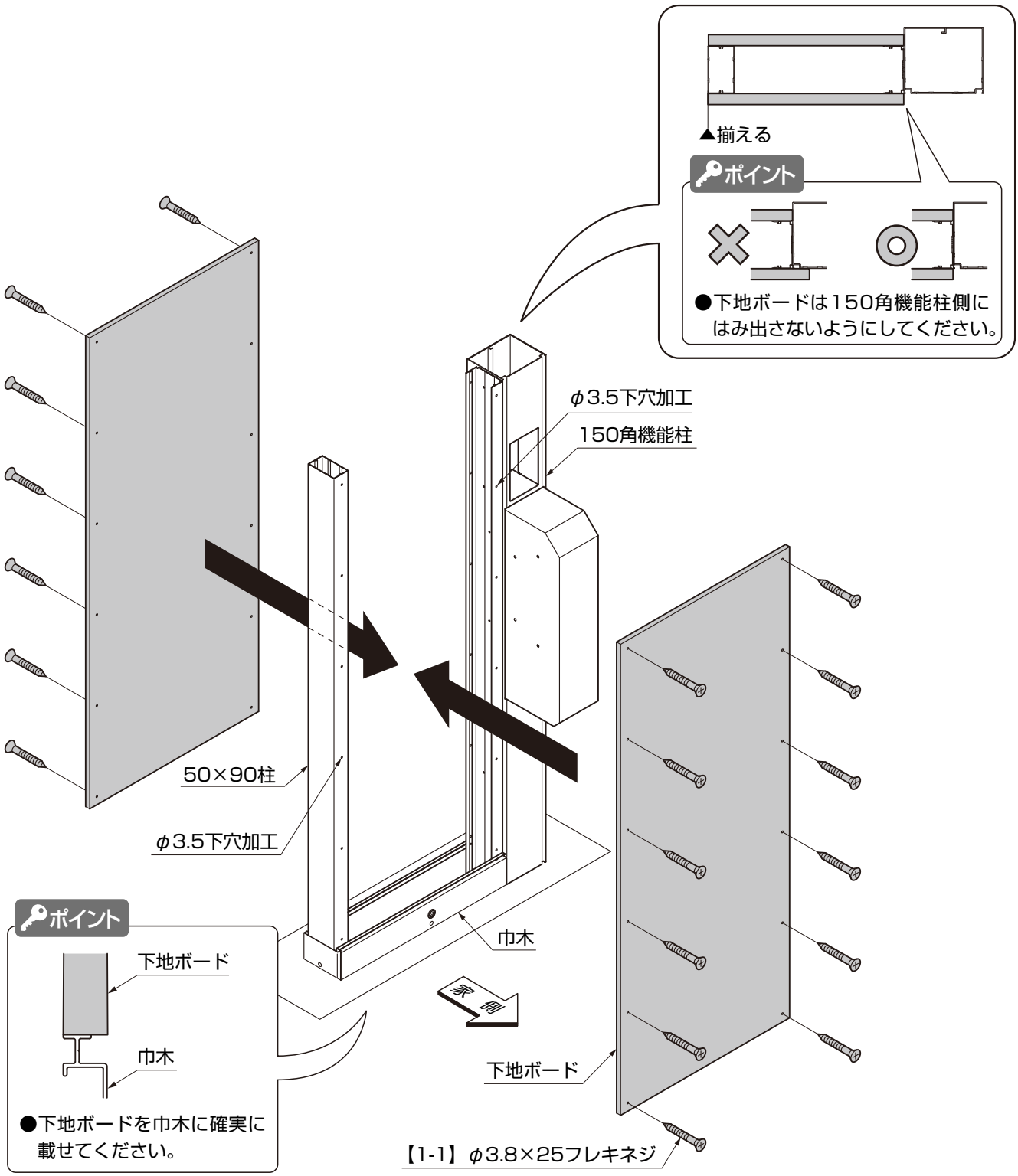




●ボルト(※1)は締め過ぎないでください。締め過ぎるとポスト投入口と口金の位置がズレてしまいます。

①ポストの半パンチにプラスドライバーをあて、ハンマーなどでたたいて穴をあけてください。
②ポストを150角機能柱とポスト取付金具F（下）に【1-2】【1-3】で取付けてください。
③指定の箇所にシーリングをしてください。

6. 下地ボードの取付け



①本体ユニットに下地ボードを仮当てし、柱にφ3.5の穴加工をしてください。
②下地ボードを柱に【1-1】で取付けてください。

ポイント

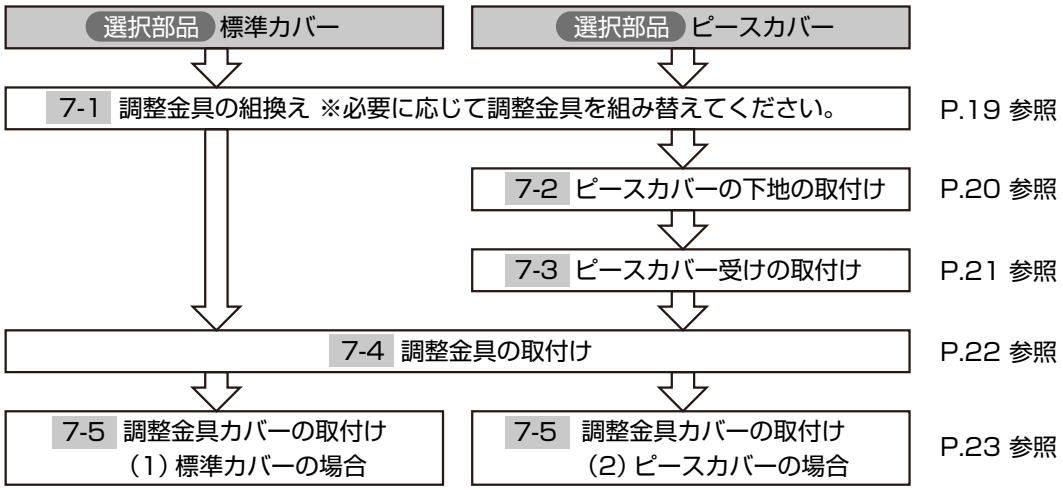
●下地ボード取付ネジの頭を下地ボードの面に合せ、フラットになるまで締め付けてください。
締め過ぎるとボードが割れるおそれがあるので注意してください。

B079_201411B

7. 調整金具の取付け　※門柱仕様の場合の作業です。

ポイント

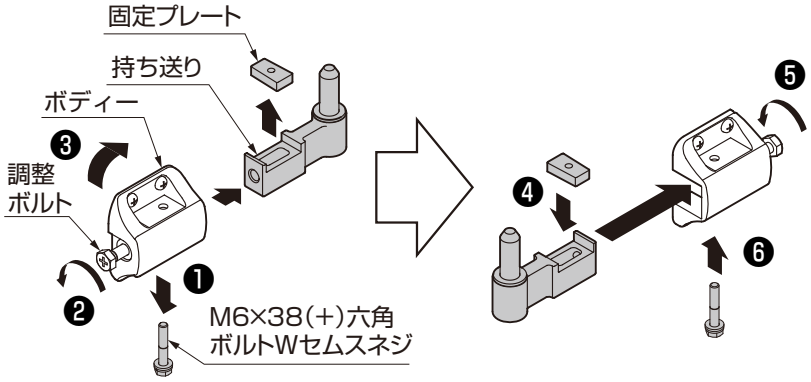
●調整金具カバーには、標準カバーとピースカバーがあり、施工手順が一部異なります。



7-1 調整金具の組替え

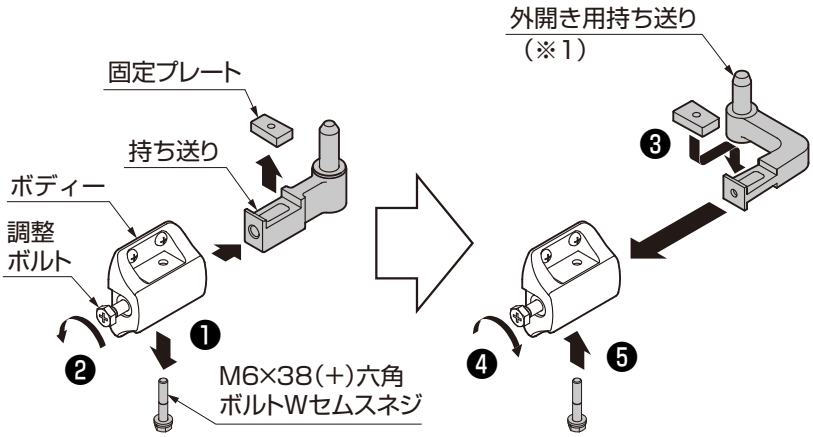
※調整金具ピースカバーの場合、調整金具切欠きカバーの取付けは不要です。
組替え手順のみ参照してください。

(1) 片開き、左勝手に組替える場合



①「M6×38（+）六角ボルトWセムスネジ」を外してください。
②調整ボルトをゆるめて、持ち送りと固定プレートを外してください。
③ボディーの向きを変えてください。
④固定プレートを持ち送りに取付け、ボディーに挿入してください。
⑤調整ボルトを締めてください。
⑥持ち送りを調整ボルトと「M6×38（+）六角ボルトWセムスネジ」で固定してください。

(2) 外開き用持ち送りに組替える場合



①「M6×38（+）六角ボルトWセムスネジ」を外してください。
②調整ボルトをゆるめて、持ち送りと固定プレートを外してください。
③固定プレートを外開き用持ち送りに取付け、ボディーに挿入してください。
④調整ボルトを締めてください。
⑤持ち送りを調整ボルトと「M6×38（+）六角ボルトWセムスネジ」で固定してください。

ポイント

●外開き（※1）の場合は、90°以上開くと門袖本体に門扉が当たる場合があります。

7.（つづき）

7-2 ピースカバー下地の取付け 選択部品 ※120角門柱の場合の作業です。

（1）ピースカバー下地の加工

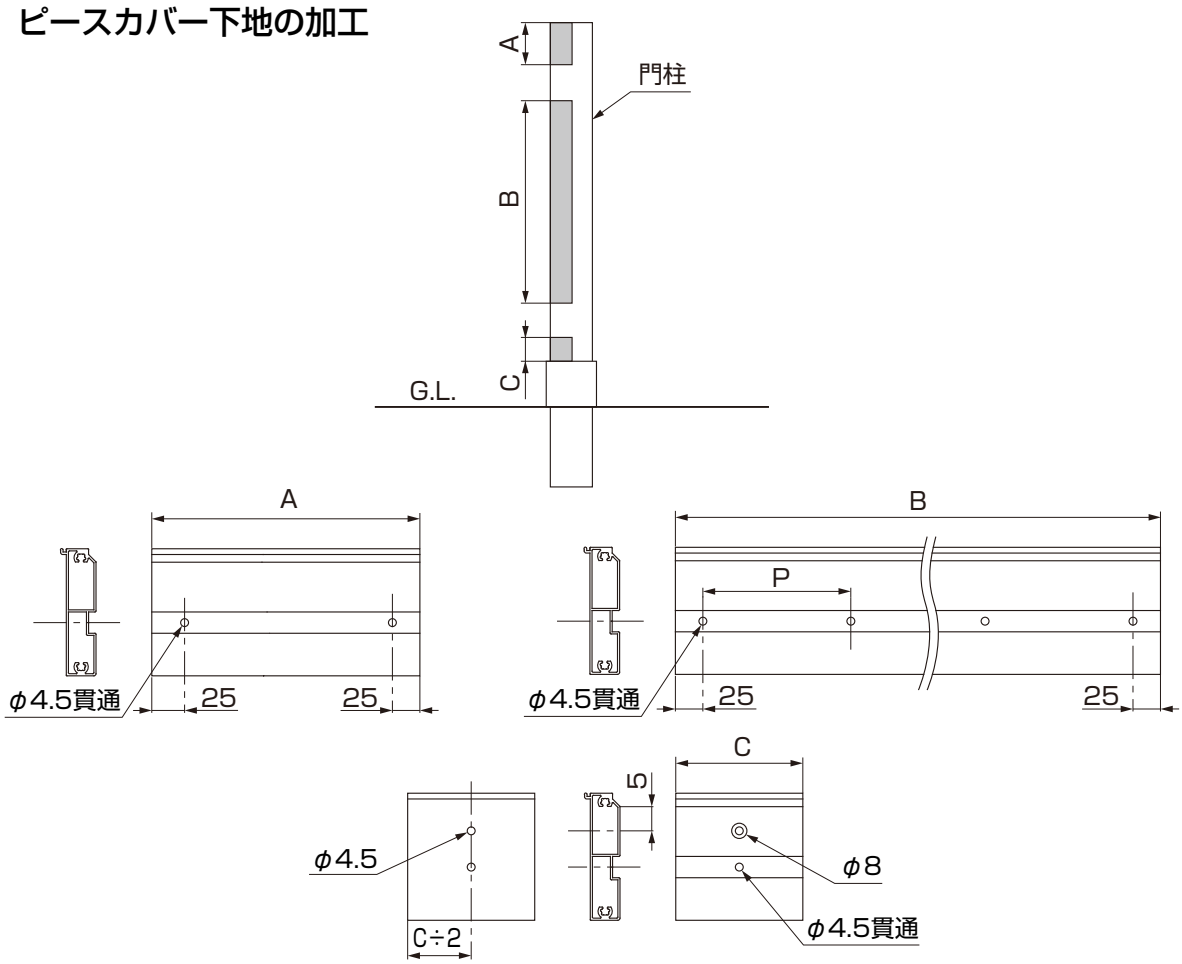


図7-1　切断と穴加工

表7-1

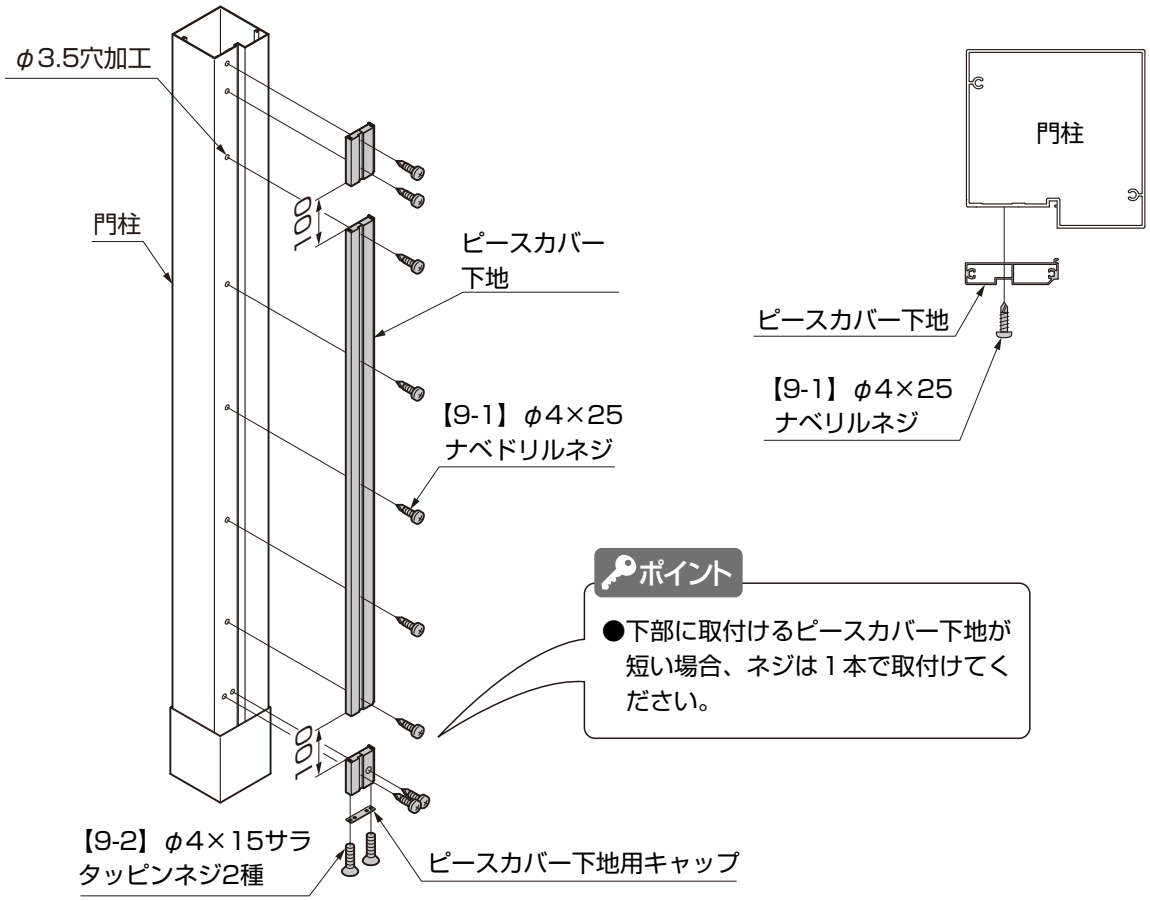
	寸法	寂雅楽Ⅱ	細割ボーダー	サイモン	センティア	セラヴィオR	エクセンシア	塗り
H12門扉	A	309	305	302	302	301	307	296
	B	890	894	875	860	876	875	900
	P	210	211	206.25	202.5	206.5	206.25	212.5
	C	22.5	22.5	44.5	59.5	44.5	39.5	25.5
H14門扉	A	116.5	109	101.5	100.5	101.5	119.5	96
	B	1082.5	1090	1075.5	1061.5	1075.5	1062.5	1100
	P	258	260	256	253	256	253	262.5
	C	22.5	22.5	44.5	59.5	44.5	39.5	25.5
H12門扉（ラフィーネ門扉1型・4型）	A	396	392	402	403	401	419	396
	B	803	807	775	759	776	763	800
	P	188.25	189.25	181.25	177.25	181.5	178.25	187.5
	C	22.5	22.5	44.5	59.5	44.5	39.5	25.5

①ピースカバー下地を加工してください。

ポイント

●ラフィーネ門扉1型・4型を使用する場合、調整金具ピッチが900のためピースカバー仕様は現場でのタイルカットが必要になります。

（2）ピースカバー下地の取付け

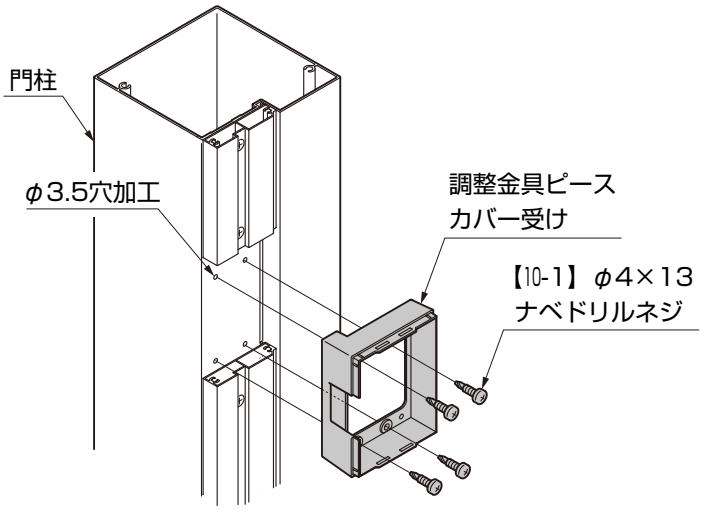


ポイント

●下部に取付けるピースカバー下地が短い場合、ネジは１本で取付けてください。

①門柱にφ3.5の穴加工をし、ピースカバー下地を【9-1】で取付けてください。
②ピースカバー下地用キャップをピースカバー下地に【9-2】で取付けてください。

7-3　調整金具ピースカバー受け 選択部品 の取付け　※120角門柱の場合の作業です。



①門柱にφ3.5の穴加工をし、調整金具ピースカバー受けを【10-1】で取付けてください。

ポイント

●下側も同様に取付けてください。

7. （つづき）

7-4 調整金具の取付け

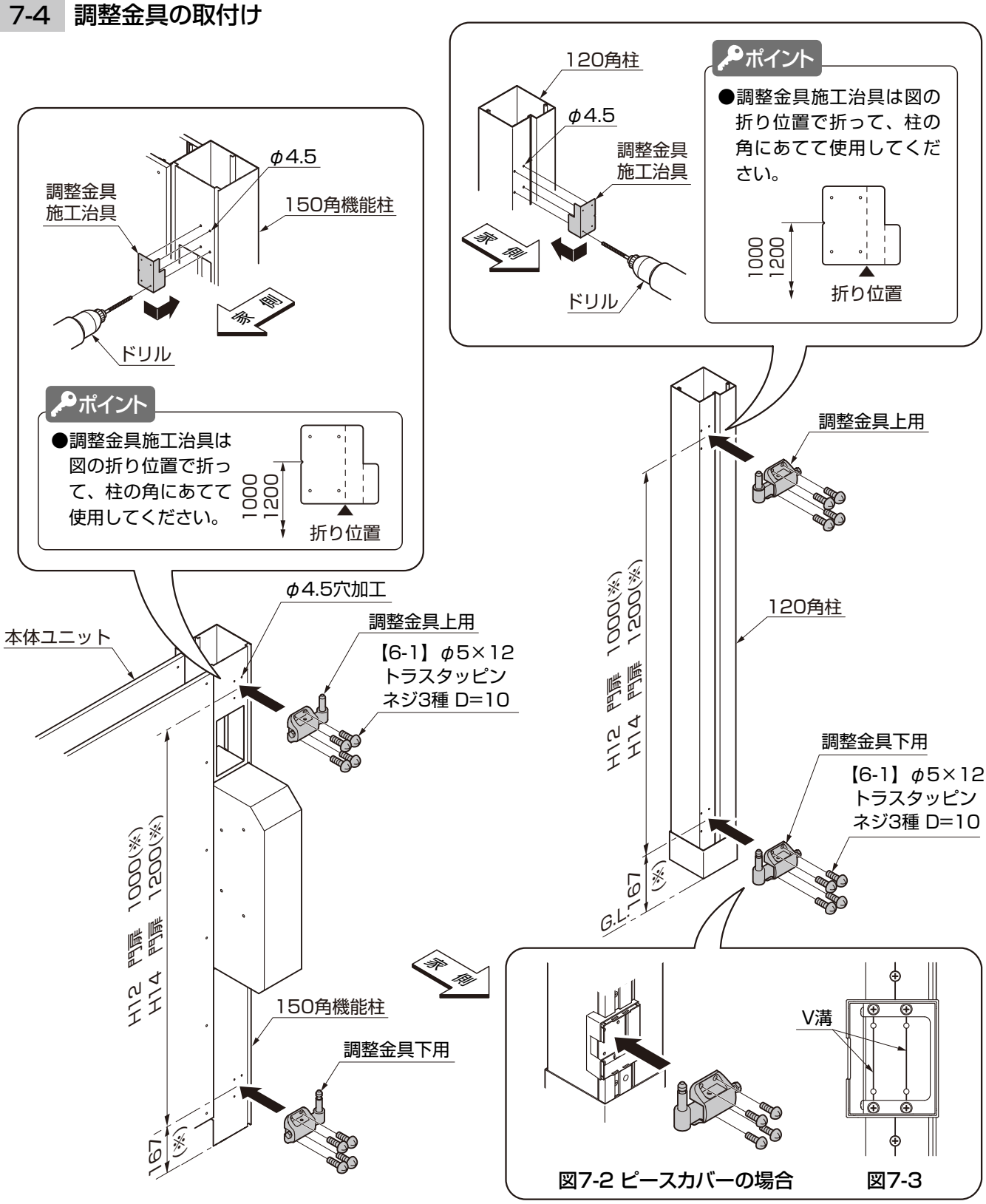
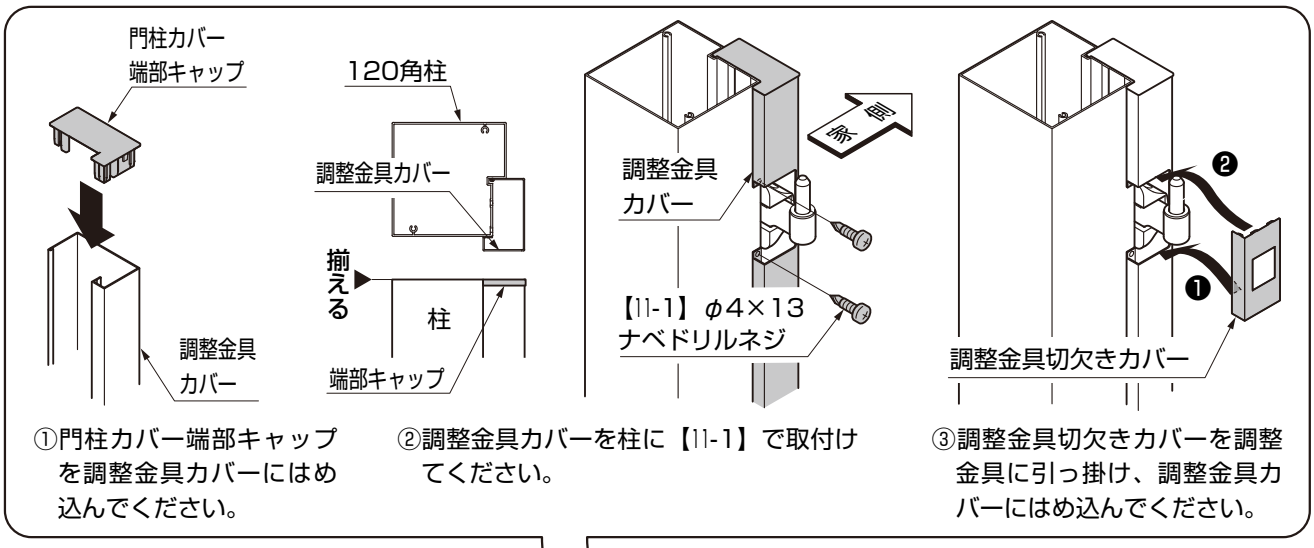


図7-2 ピースカバーの場合　図7-3

①120角柱または本体ユニットの150角機能柱に調整金具施工治具をあてケガキ、ドリルで穴加工してください。
②調整金具ピースカバーの場合、ピースカバー受けを取付けた後、調整金具の写し穴をV溝に加工してください。
③調整金具を柱に【6-1】で取付けてください。
※ピースカバー仕様でタイル張りの場合は図7-3を参照して写し穴で取付けてください。

7-5 調整金具カバーの取付け 選択部品 ※120角門柱の場合の作業です。

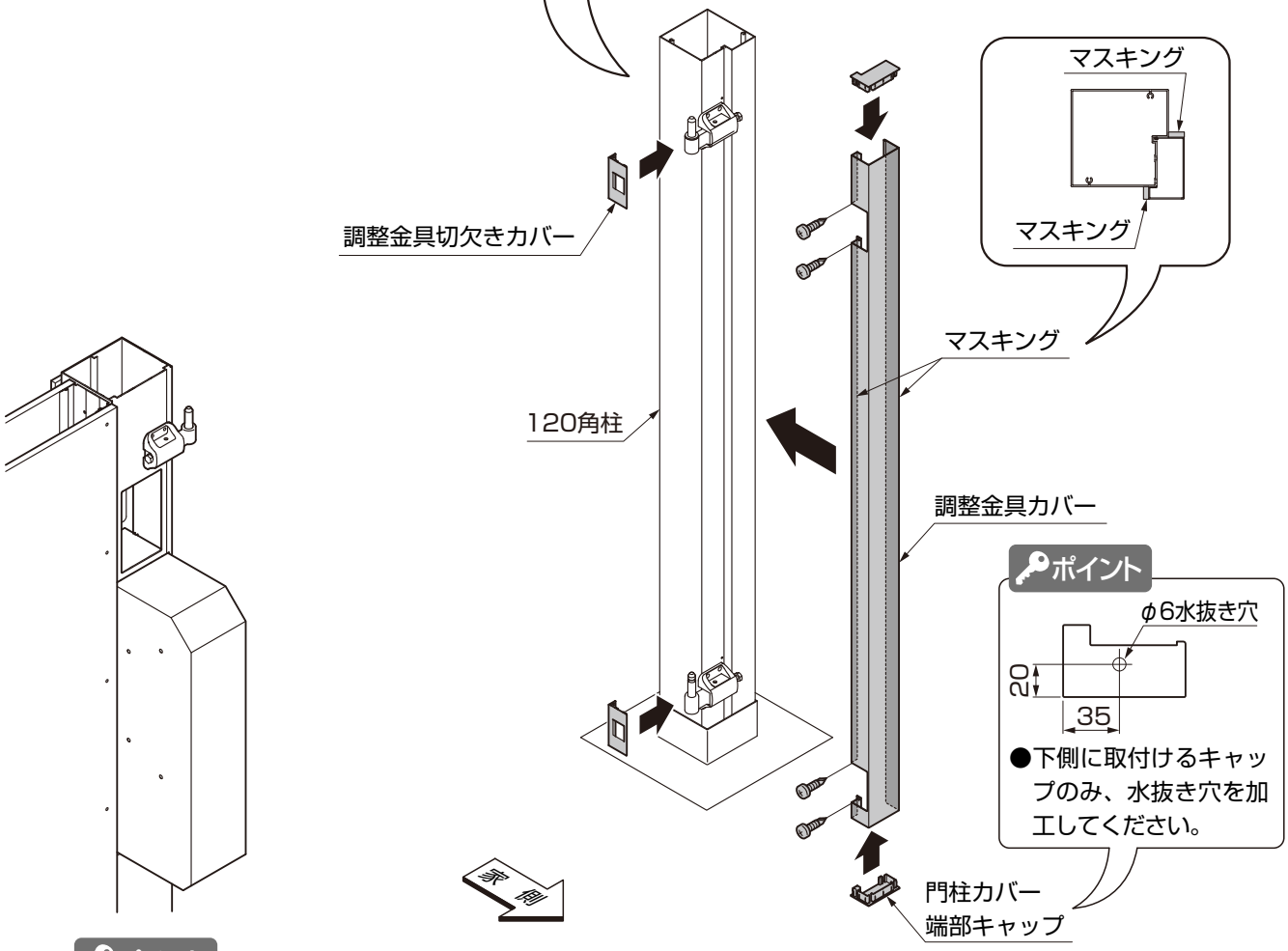
（1）標準カバーの場合



①門柱カバー端部キャップを調整金具カバーにはめ込んでください。

②調整金具カバーを柱に【11-1】で取付けてください。

③調整金具切欠きカバーを調整金具に引っ掛け、調整金具カバーにはめ込んでください。



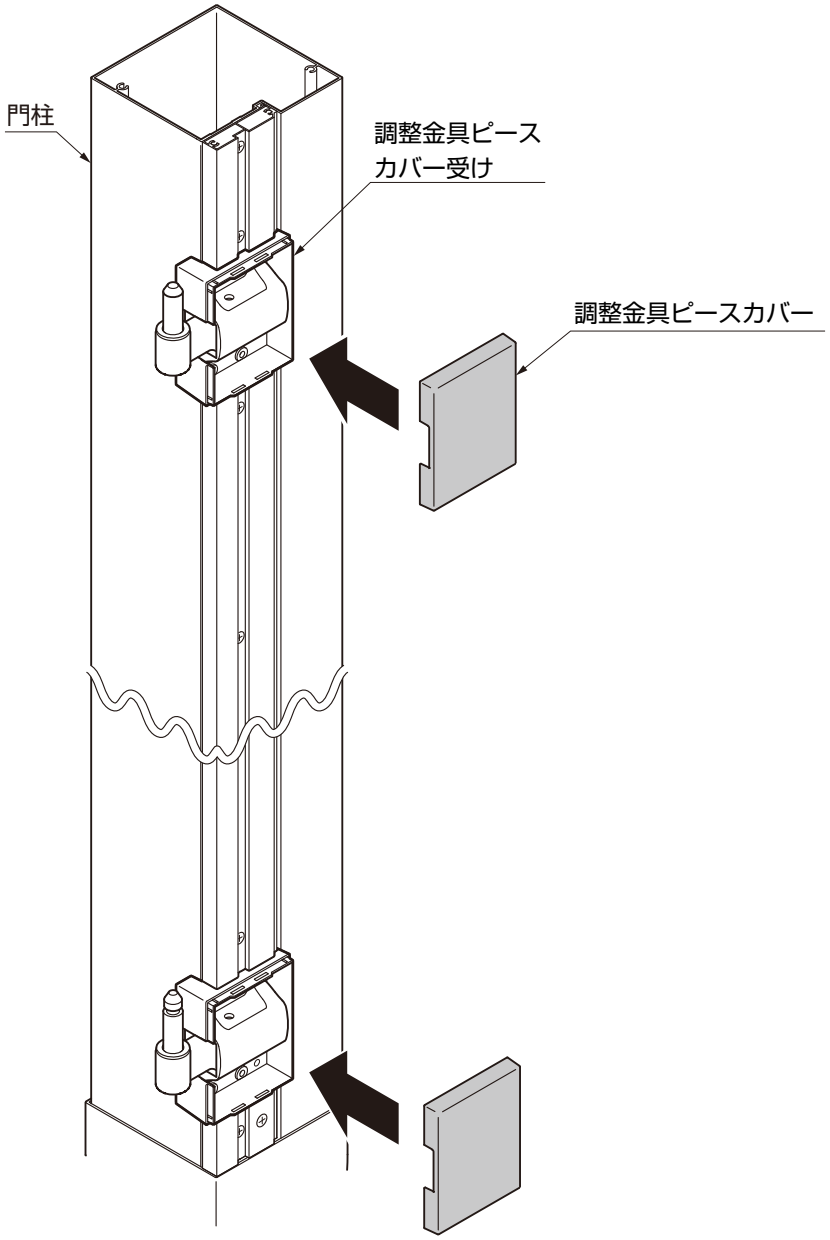
ポイント

●タイル仕上げ、塗り仕上げの際に調整金具カバーにタイル用接着剤や塗剤がつかないように、調整金具カバーをマスキングしてください。あとから調整金具カバーが外れなくなってしまいます。

7.（つづき）

7-5　つづき

（2）ピースカバーの場合



ポイント

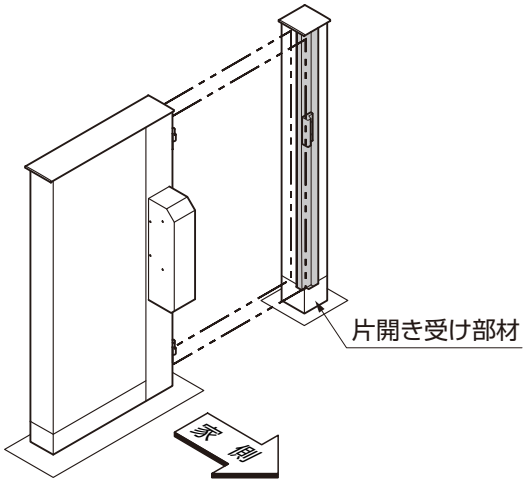
●タイル施工の際、接着剤が付着しないよう調整金具ピースカバーにマスキングしてください。

①調整金具ピースカバーを調整金具ピースカバー受けにはめ込んでください。

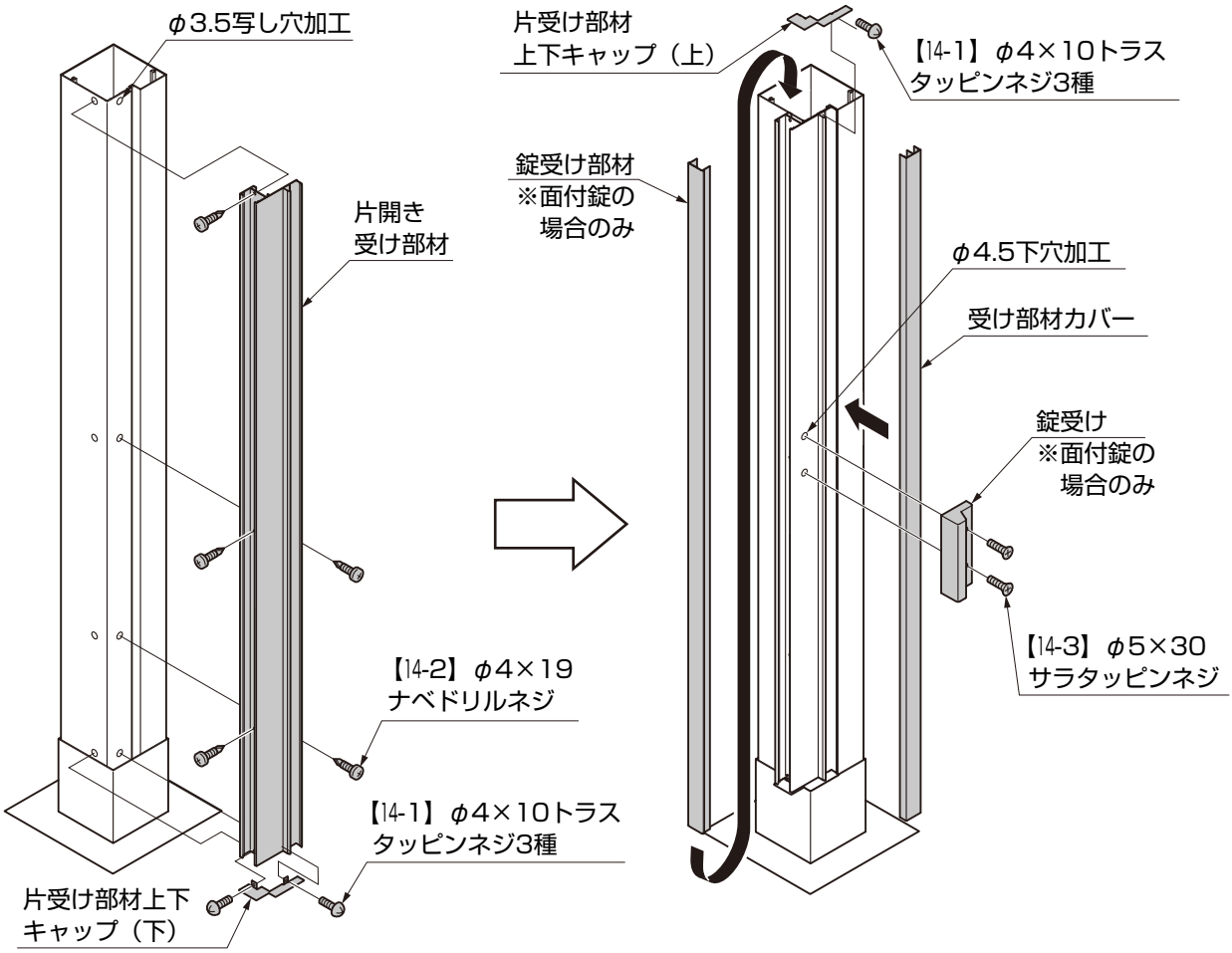
8. 片開き受け部材の取付け

※門柱仕様 片開き門扉の場合の作業です。

8-1 部品配置



8-2 取付け



①柱に片開き受け部材を当てがい、φ3.5の写し穴をあけてください。
②片開き受け部材、片受け部材上下キャップ（下）を柱に【14-1】【14-2】で取付けてください。
③錠受け部材を片開き受け部材に挿入してください。
④片受け部材上下キャップ（上）を片開き受け部材に【14-1】で取付けてください
⑤受け部材カバーを片開き受け部材にはめてください。
⑥片開き受け部材にφ4.5の下穴をあけ、面付け錠を【14-3】で取付けてください。

ポイント

●各錠の取付説明書も確認してください。

9. サインの取付け

9-1 ガラスサインの取付け

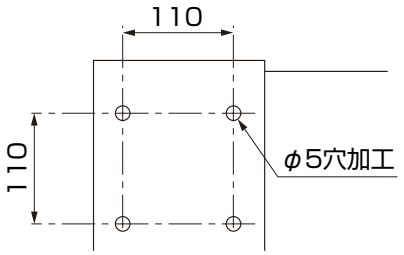


図 9-1　穴加工

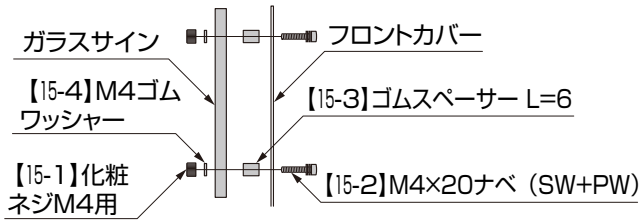
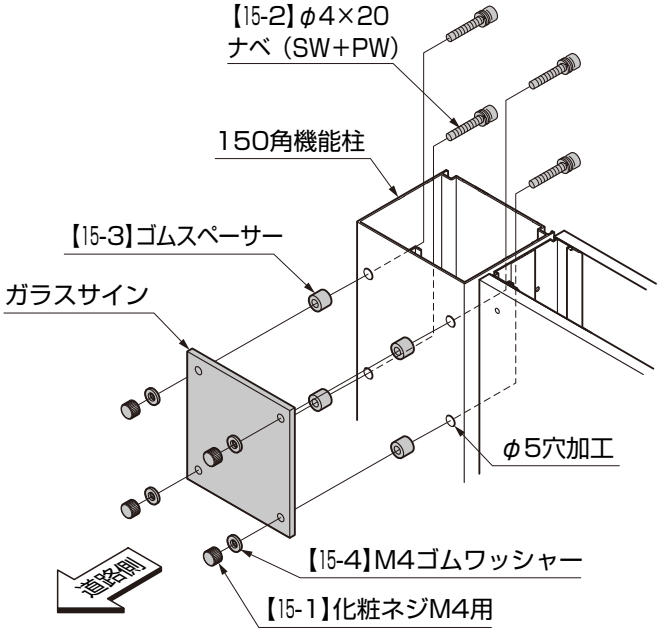


図 9-2　側面図



①150角機能柱にφ5の穴加工をしてください。
②ガラスサインを150角機能柱に【15-1】【15-2】【15-3】【15-4】で取付けてください。

ポイント

●ガラスサインの上に表札灯を取付ける場合、ファンクションカバー上面とサインの取付け穴の寸法を60mm以上あけてください。(※1)

9-2 鋳物サインの取付け

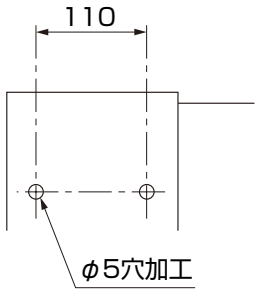


図 9-3　穴加工

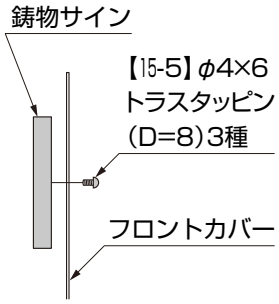
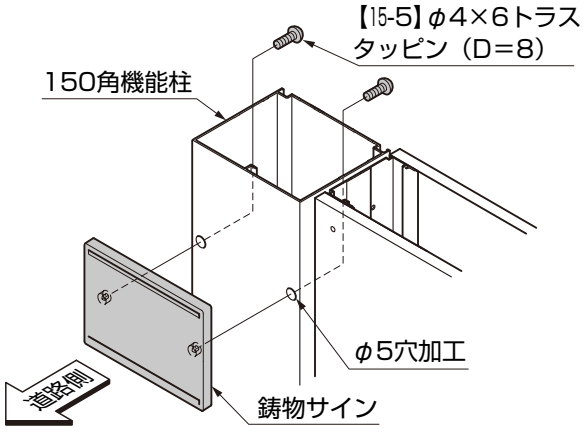


図 9-4　側面図



①150角機能柱にφ5の穴加工をしてください。
②鋳物サインを150角機能柱に【15-5】で取付けてください。

9-3 ステンレスサインの取付け

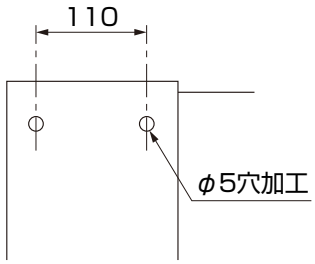


図 9-5　穴加工

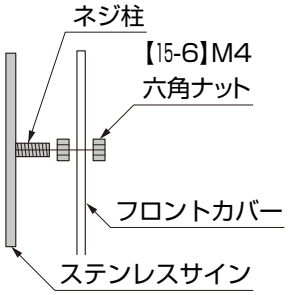
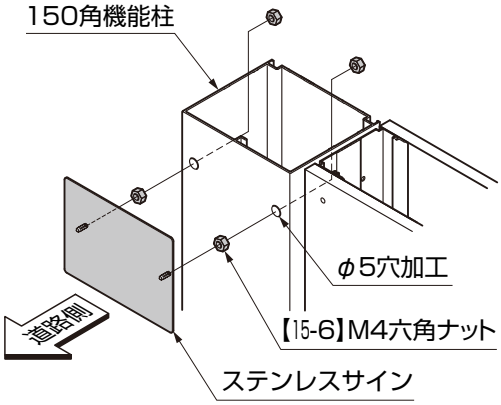


図 9-6　側面図



①150角機能柱にφ5の穴加工をしてください。
②ステンレスサインを150角機能柱に【15-6】で取付けてください。

9-4 備前焼サインの取付け

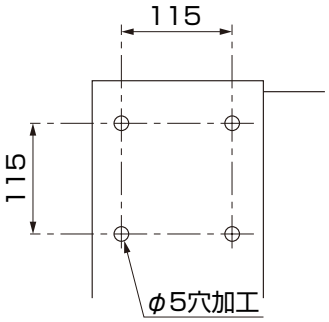


図 9-7　穴加工

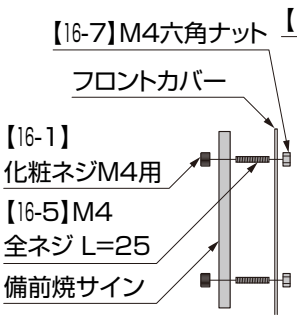
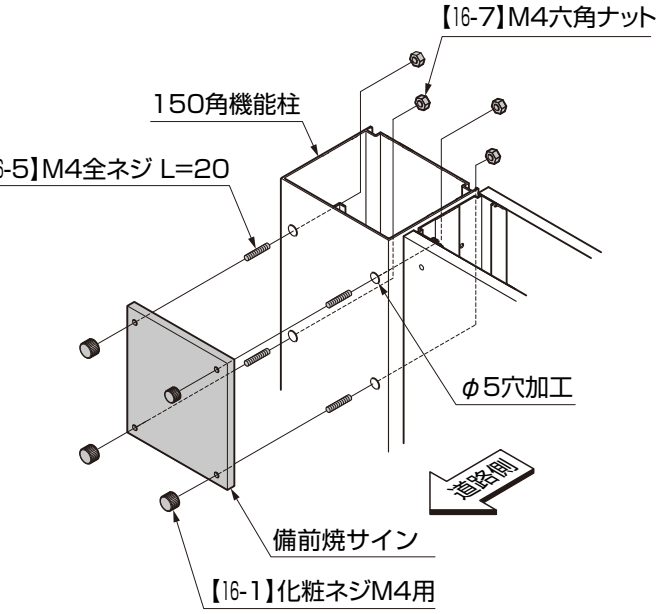


図 9-8　側面図



①150角機能柱にφ5の穴加工をしてください。
②備前焼サインを150角機能柱に【16-1】【16-5】【16-7】で取付けてください。

9-5 江戸硝子サインの取付け

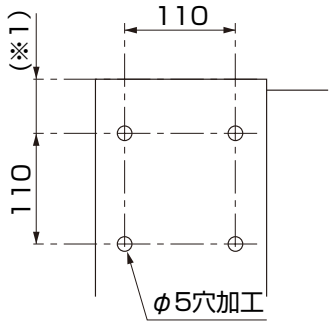


図 9-9　穴加工

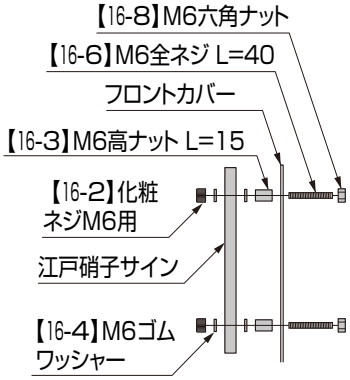
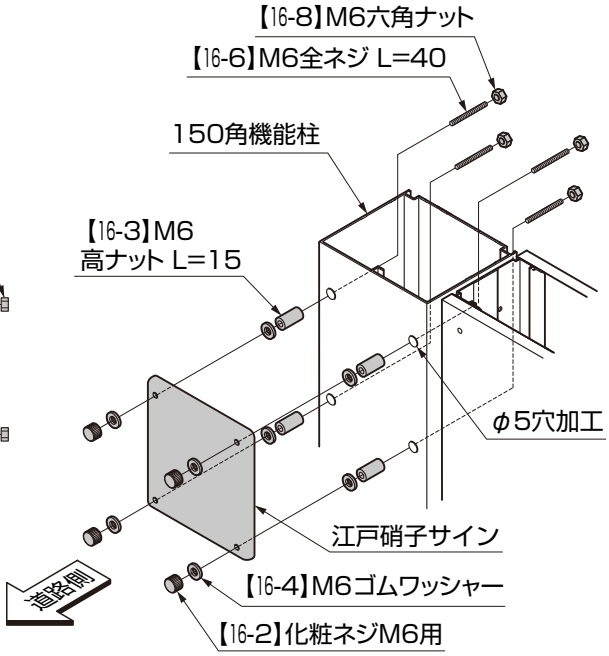


図 9-10　側面図

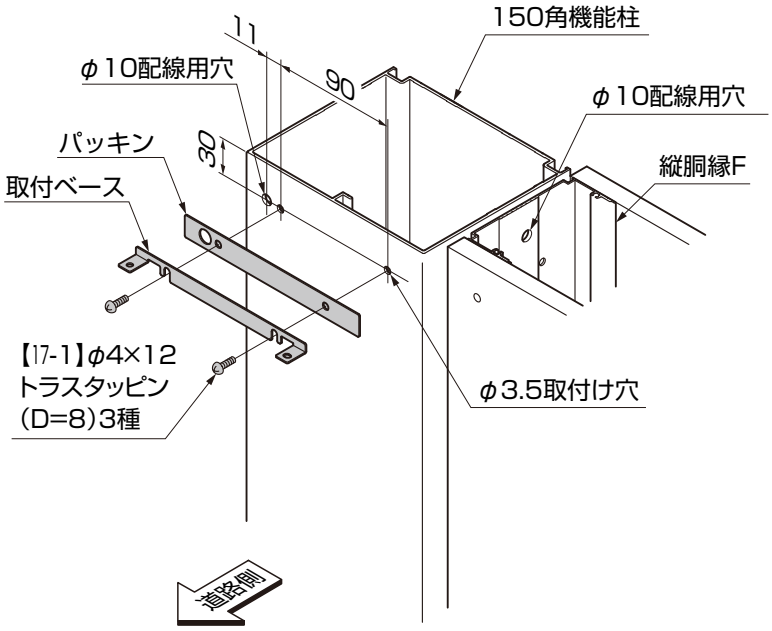


①150角機能柱にφ5の穴加工をしてください。
②江戸硝子サインを150角機能柱に【16-2】【16-3】【16-4】【16-6】【16-8】で取付けてください。

ポイント

●江戸硝子サインの上に表札灯を取付ける場合、150角機能柱とサインの取付け穴の寸法を60mm以上あけてください。(※1)

10. 表札灯の取付け オプション



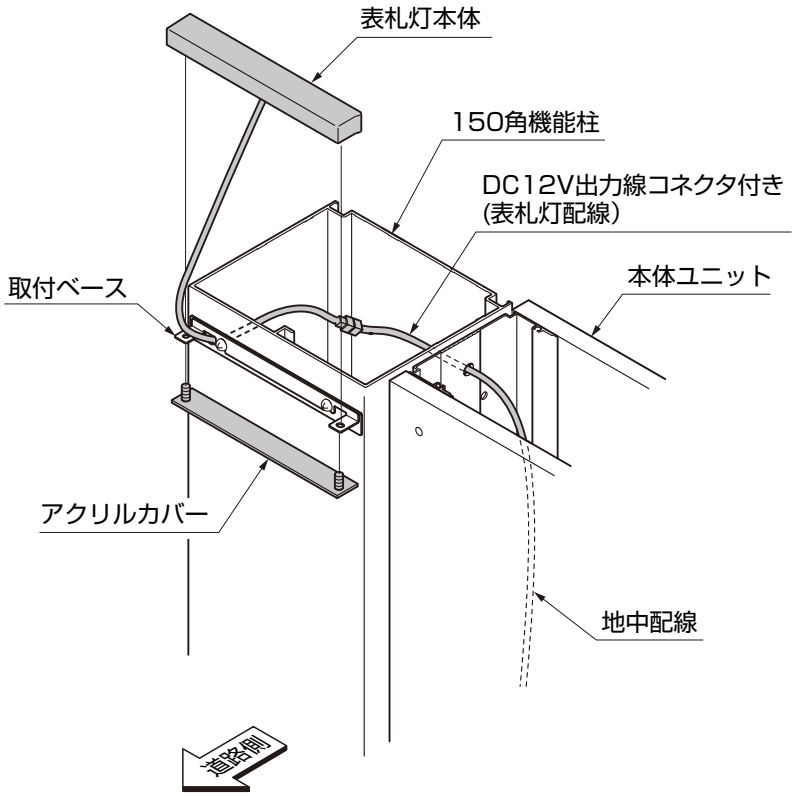
①150角機能柱にφ3.5の取付け穴とφ10の配線用穴を、縦胴縁Fにはφ10の配線用穴を加工します。

②パッキンのハク離テープをはがし、ファンクションカバーに加工した穴に合わせて貼付けます。

③表札灯のアクリルカバーを外し、取付けベースを150角機能柱に【17-1】で固定してください。

補 足

●表札灯本体、取付ベース、アクリルカバーは、仮組付けしてあります。取付けの際に各部品を取外してください。



ポイント

●アクリルカバーの固定ネジは強く締め付けないでください。アクリルカバーが破損します。
●接続しないコネクタ付き配線は防水テーピング処理を施してください。

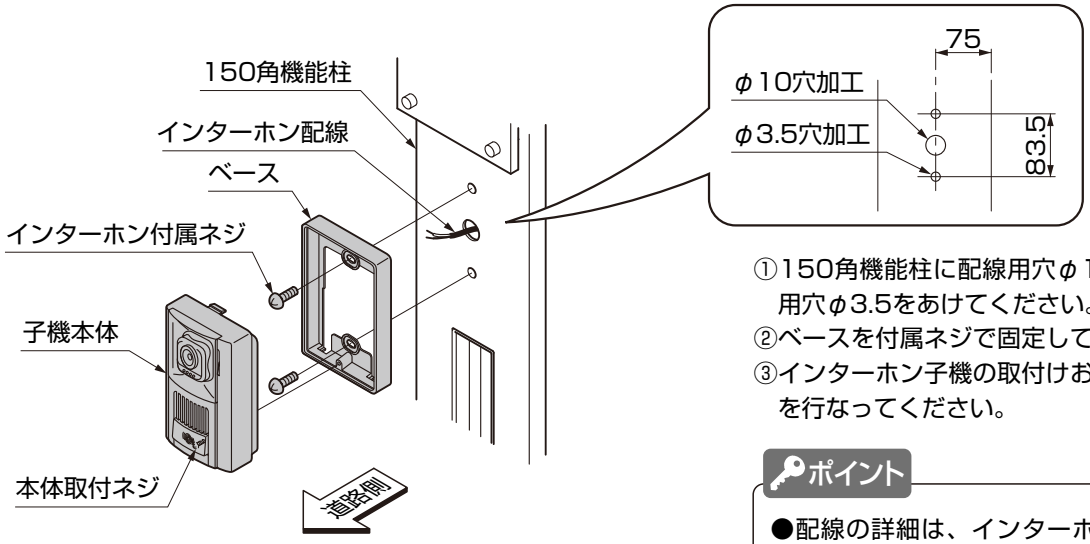
④配線用穴から表札灯本体の配線を通し、地中配線と接続してください。
⑤表札灯本体とアクリルカバーを取付ベースにアクリルカバーに付いているネジで共締めしてください。

補 足

●昼間、点灯確認する場合、支柱上部と明るさセンサ受光部を黒い布などでふさいでください。

11. インターホンの取付け 選択部品

11-1 面付型の取付け ※インターホンなしに露出型のインターホンを取付ける場合の作業です。

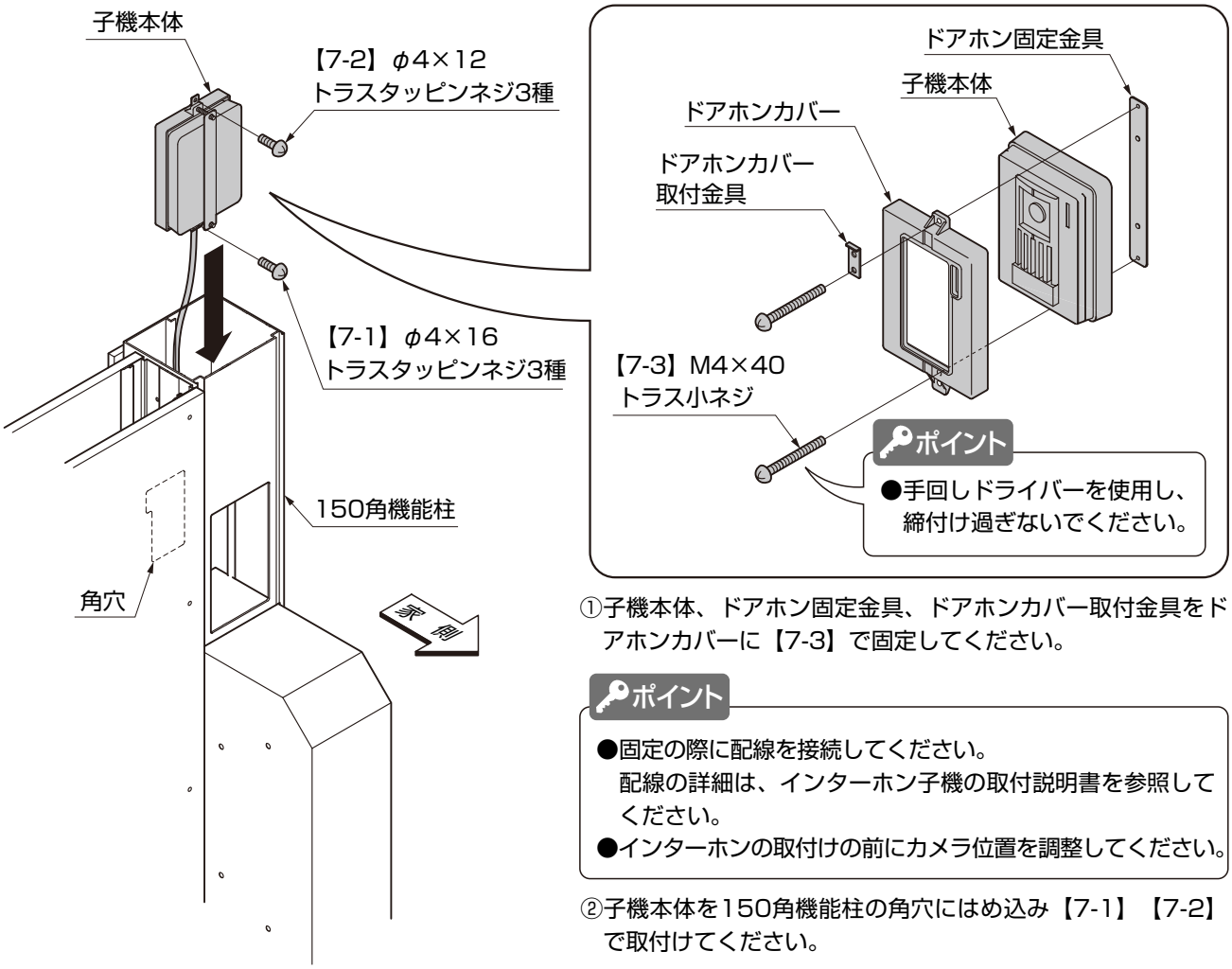


①150角機能柱に配線用穴φ10と取付用穴φ3.5をあけてください。
②ベースを付属ネジで固定してください。
③インターホン子機の取付けおよび配線を行なってください。

ポイント

●配線の詳細は、インターホン子機の取付説明書を参照してください。

11-2 内蔵型の取付け ※インターホンありに内蔵型のインターホンを取付ける場合の作業です。



ポイント

●手回しドライバーを使用し、締付け過ぎないでください。

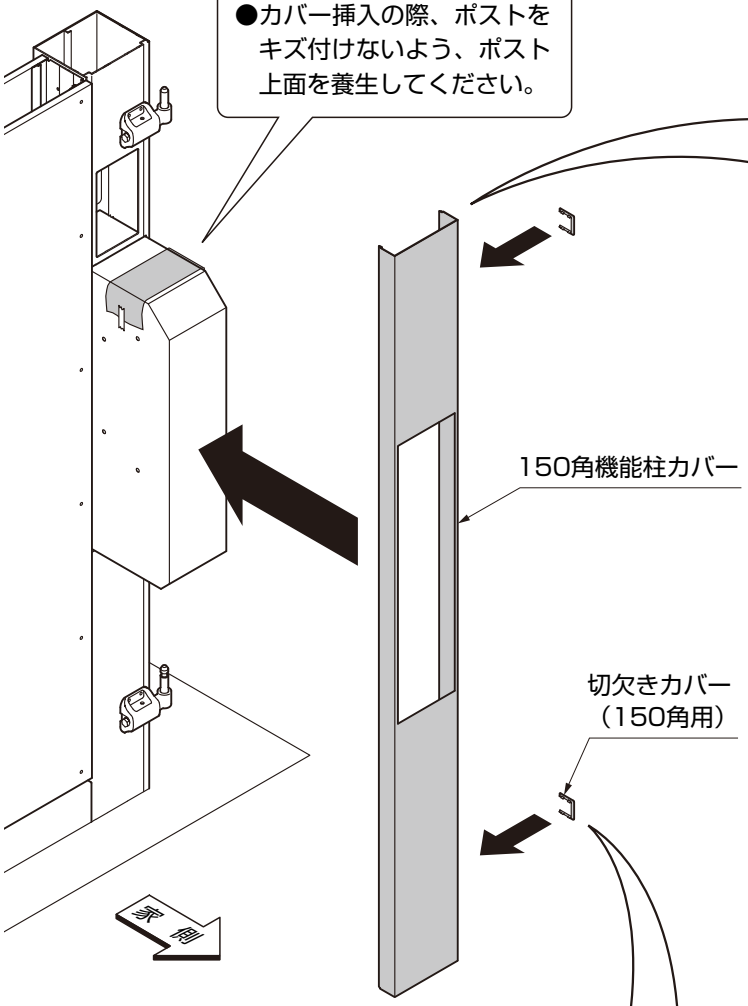
①子機本体、ドアホン固定金具、ドアホンカバー取付金具をドアホンカバーに【7-3】で固定してください。

ポイント

●固定の際に配線を接続してください。
配線の詳細は、インターホン子機の取付説明書を参照してください。
●インターホンの取付けの前にカメラ位置を調整してください。

②子機本体を150角機能柱の角穴にはめ込み【7-1】【7-2】で取付けてください。

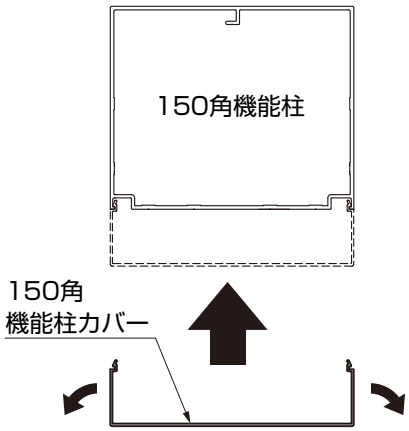
12. 機能柱カバーの取付け



ポイント

●カバー挿入の際、ポストをキズ付けないよう、ポスト上面を養生してください。

12-1 150角機能柱カバー

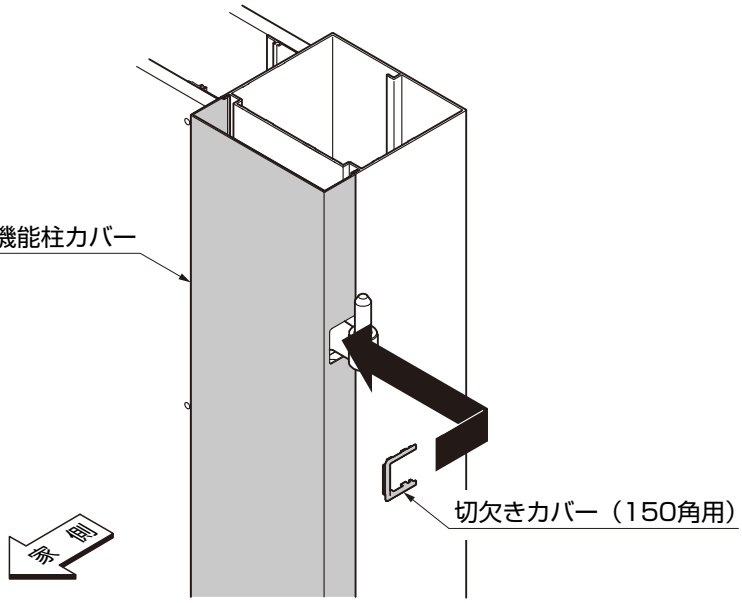


①150角機能柱カバーを150角機能柱にはめ込んでください。

ポイント

●150角機能柱カバーが外れやすい場合はカバーの両端を少し開いてください。

12-2 切欠きカバー（150角用）の取付け ※門柱仕様の場合です。

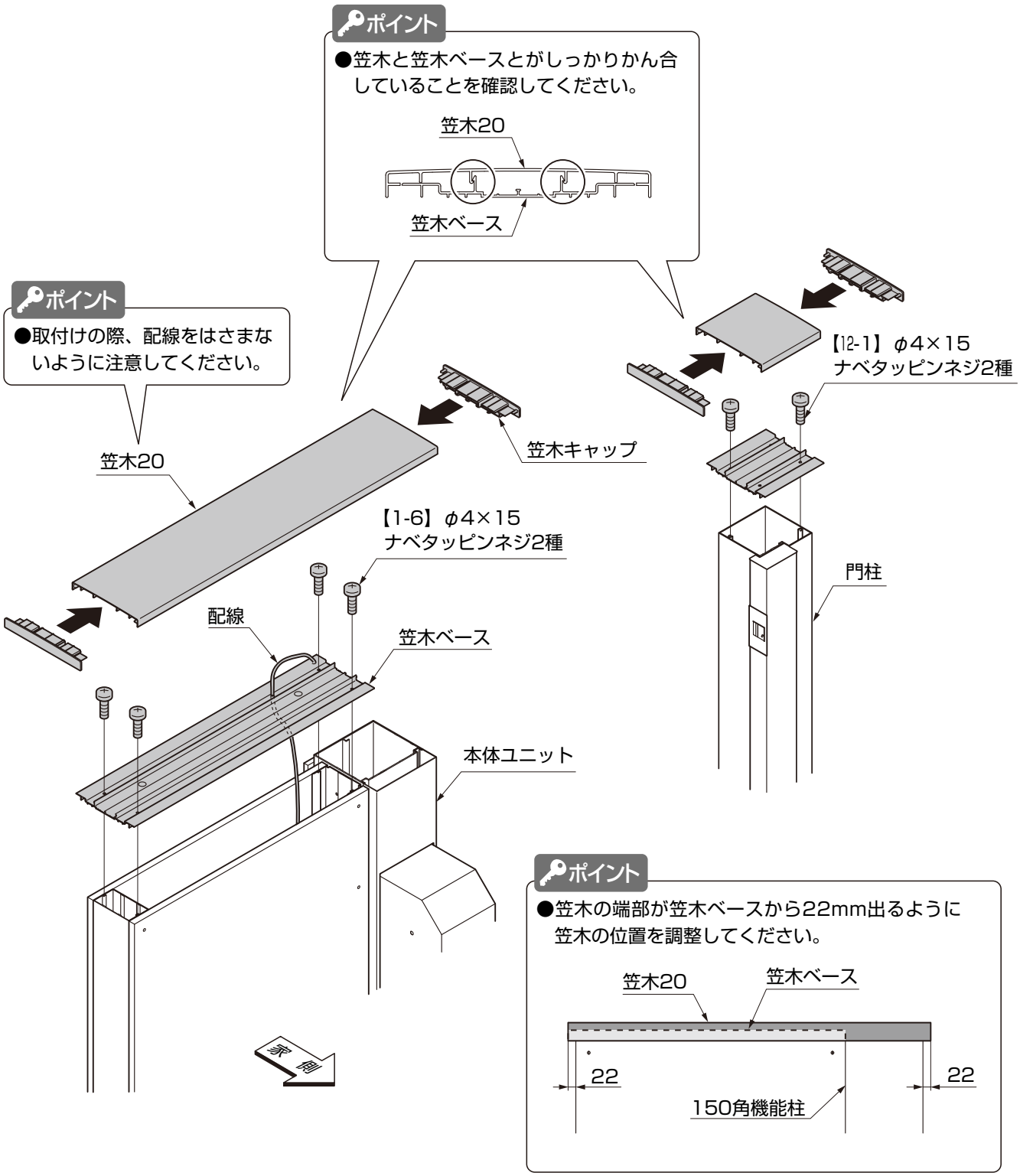


①切欠きカバー（150角用）を150角機能柱カバーに取付けてください。

ポイント

●150角機能柱カバーに接着剤がつかないようにカバーを養生してください。

13. 笠木の取付け



①笠木ベースを本体ユニット、門柱に【1-6】【12-1】で取付けてください。
②笠木20を笠木ベースにはめ込んでください。
③笠木キャップを笠木20にはめ込んでください。

6　仕上げの施工：タイル仕上げ

1. 梱包明細表

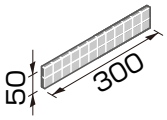
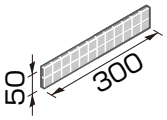
はるかべタイル形状一覧　※寸法は目地共寸法です。（調整用平のみ実寸法）

商品名	標準平ユニット	出隅用平ユニット	小口面ユニット	調整用平
寂雅楽(さびうた)Ⅱ 目地幅 縦：2mm 横：2.5mm	330 237 15シート　8シート	330 152 30シート　15シート	330 126 5シート	8.5・10 25 235 132枚
細割りボーダー （標準割面） 目地幅 縦：2mm 横：2.1mm	303 237 14シート　7シート	303 137.5 28シート　14シート	303 123.5 5シート	13.5 19.5 235 200枚
サイモン 目地幅 縦：2mm 横：2.5mm	300 237 14シート　7シート	300 150 28シート　14シート	300 125 5シート	8.0・12.0 22.5 235 168枚
センティア 目地幅 縦：2mm 横：2mm	303 303 12シート　6シート	90° 303 接着 53.5 53.5 30シート　15シート	303 35 5シート	設定がありません
セラヴィオR 目地幅 縦：3mm 横：3mm	300 300 12シート　6シート	300 150 20シート　10シート	300 124.5 5シート	8.0・10.0 22 147 100枚
エクセンシア 目地幅 縦：2mm 横：2mm	150 455 8シート　4シート	150 150 24シート　12シート	150 126 10シート	8.0・12.0 35.5 300 50枚

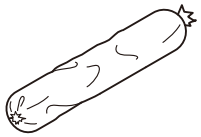
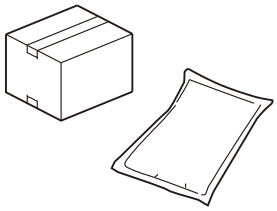
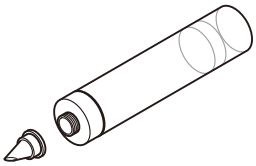
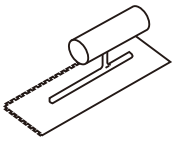
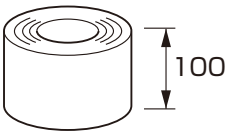
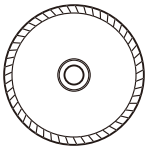
※センティアのみ、出隅用平ユニットではなく90°曲役物になります。

B079_201405A

モザイクタイル形状一覧　※寸法は目地共寸法です。

商品名	標準平ユニット	商品名	標準平ユニット
ニュアンス 目地幅 縦：2.5mm 横：2.5mm	 6シート	シェブレンド 目地幅 縦：2.5mm 横：2.5mm	 6シート

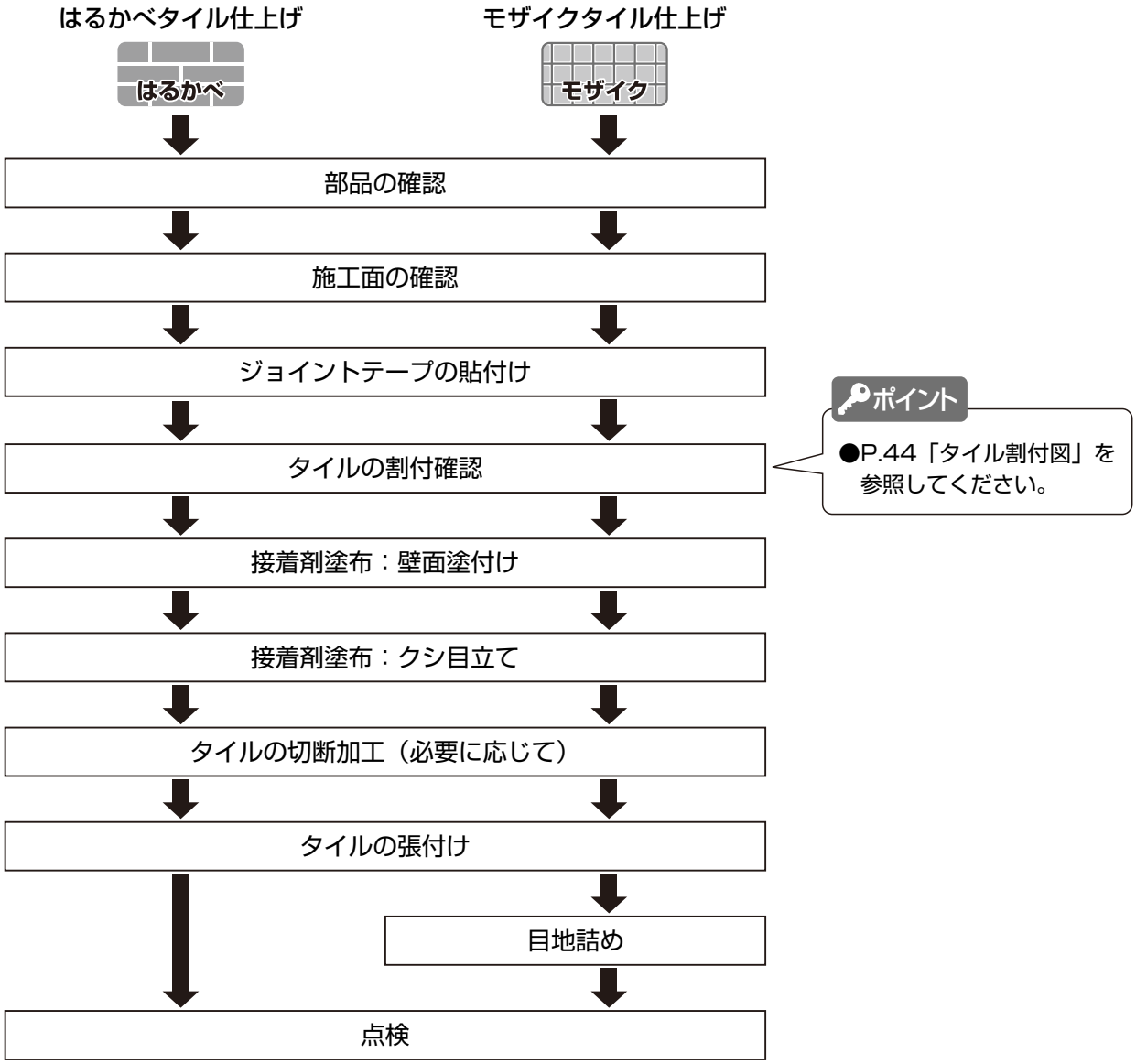
施工部材形状一覧

商品名	外装用弾性接着剤（V1LT）	タイル用目地材（SS）	接着剤用アダプターノズルセット	3mmクシ目ヘラ
材質	変成シリコーン系　1kgアルミパック	セメント系　0.5kgPEパック	PE	PE
形状				
商品名	**3mmクシ目コテ**	**ジョイントテープ（幅100）**	**タイル用切断刃（105F）**	
材質	ステンレス	ブチルゴム系	直径：φ105	
形状				

2. 施工フロー

ポイント

●仕上げ材には「はるかべタイル仕上げ」と「モザイクタイル仕上げ」があります。
仕上げ材の種類により、以下のフローにしたがってください。

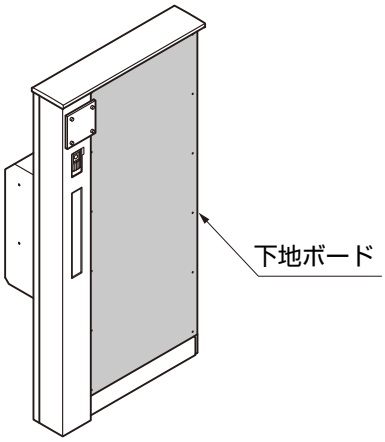


3. 施工面の確認

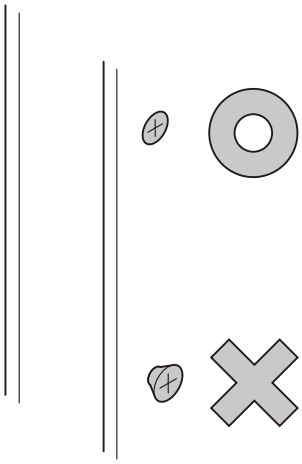
ポイント

●下地ボードが下記の条件になっているか確認してください。
確認できたら☑ を入れてください。

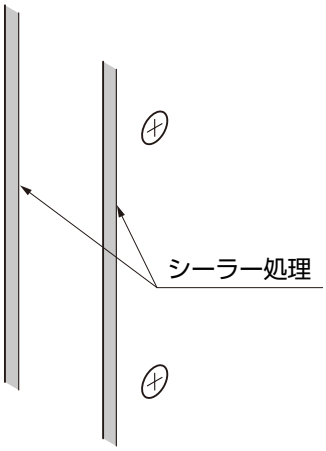
☐ 所定の下地ボードが取付いているか？



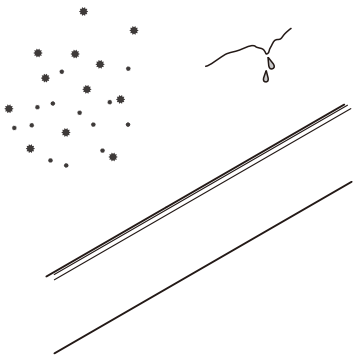
☐ 取付ネジ頭が突出していないか？



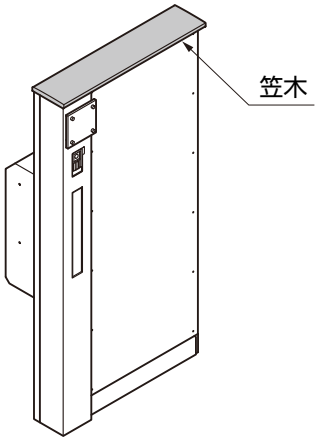
☐ 切断小口面はシーラー処理されているか？



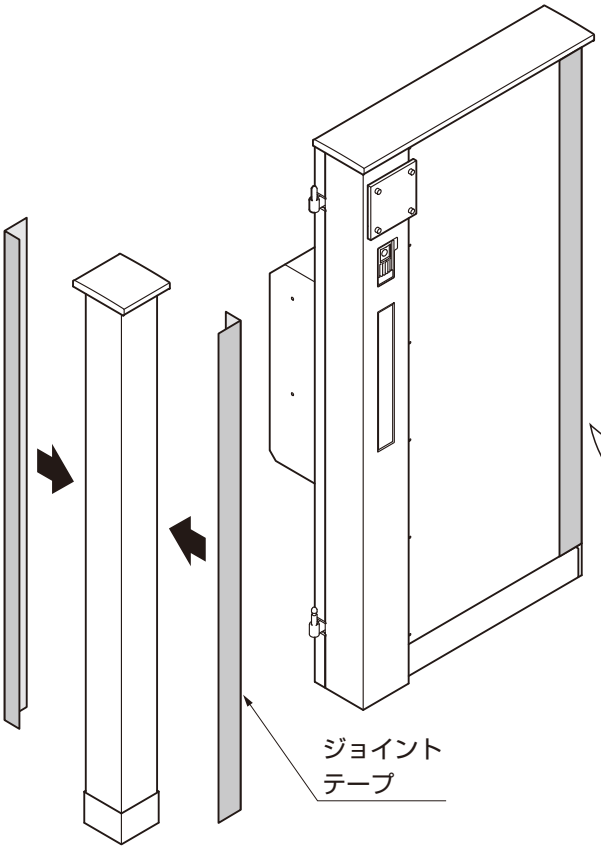
☐ 表面にゴミやホコリ、水濡れはないか？



☐ 取付け部品の施工が完了しているか？
(笠木、土台水切りなど)



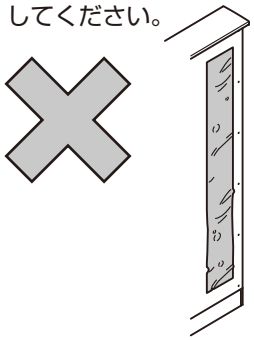
4. ジョイントテープの貼付け



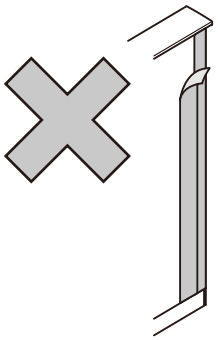
ポイント

●塗り仕上げを行う部分にはジョイントテープを貼付けないでください。

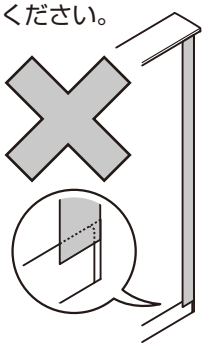
●貼付けの際は、シワや空気が入らないようにしてください。



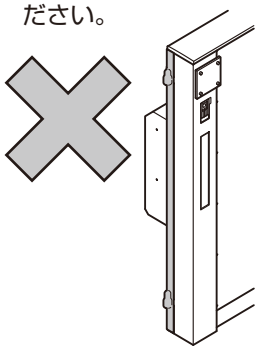
●テープ同士を重ねて貼付けしないでください。



●下地ボードからはみ出さないように貼付けてください。



●門扉金具取付部にはテープを貼らないでください。



●空気が入ってしまった場合は、カッターで切込みを入れて空気を抜いてください。

補 足

●あらかじめ高さに合わせてカットしておくと作業しやすいです。

表4-1　テープ必要数量一覧

	100mm幅	
	必要長さ（m）	1420mm　カット枚数
門袖C型	2.85	2
120角門柱	2.85	2

※上記数量は、壁面全面をタイル仕上げする場合の数量です。タイル施工面積により、数量は増減します。

①ジョイントテープ裏面の離型紙をはがして、貼付けてください。

[ジョイントテープ貼付け位置]　:テープ幅100mm

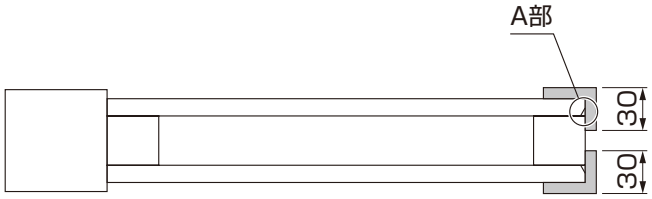


図4-1　門袖C型

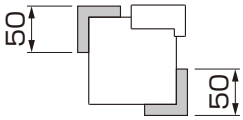
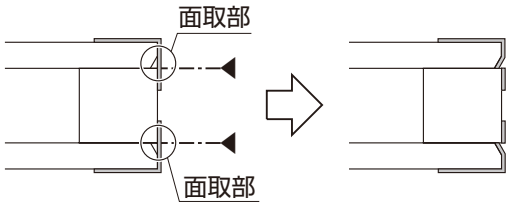


図4-2　120角門柱



①カッターナイフでジョイントテープを柱の外面で切ります。

②ジョイントテープを面取部に十分押付けてください。

5. タイルの割付確認 はるかべ モザイク

はるかべ を施工の場合

①P.44「タイル割付図」を参照し、タイル張り位置を確認してください。

モザイク を施工の場合

①現場ごとにタイルの施工位置を決定し、タイル張り位置を確認してください。

6. タイルの張付け はるかべ モザイク

6-1 接着剤、タイル張付け順序の確認

ポイント

●記載されている順番ごとに「接着剤の塗布」「タイルの張付け」を行なってください。

順番	❶		❷		❹	参照ページ
行程	接着剤塗布 タイル張付け	⇨	接着剤塗布 タイル張付け	・・・	接着剤塗布 タイル張付け	→「6-3 接着剤塗布」参照（P.39） →「6-5 タイルの張付け」参照（P.41）

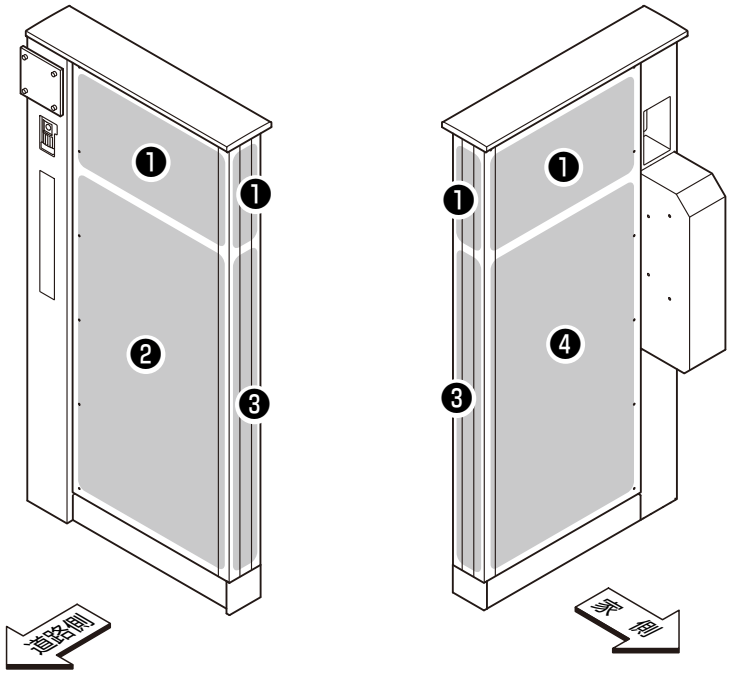


図6-1　門袖C型

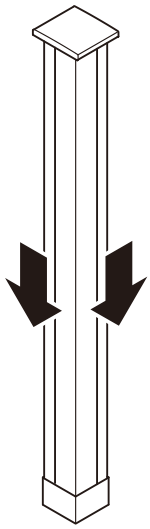


図6-2　120角門柱

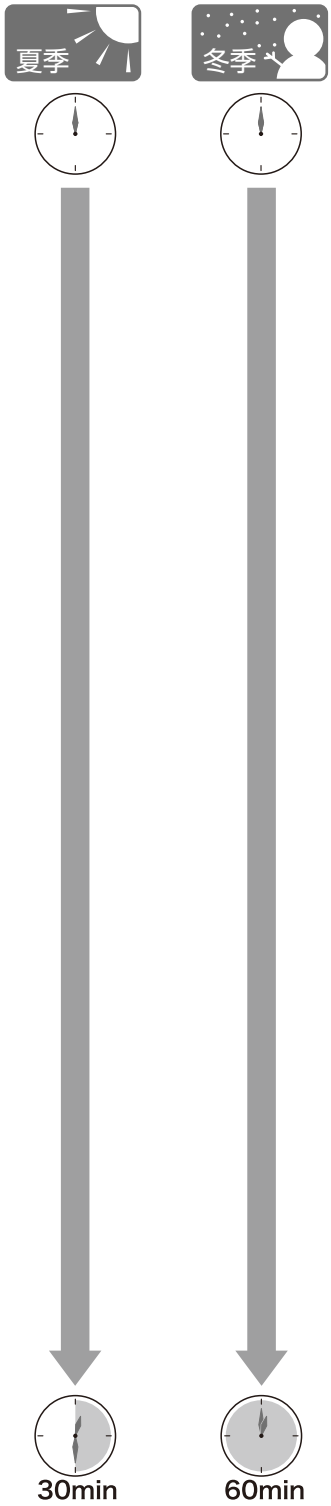
①接着剤とタイルの張付け順序を確認してください。

6.（つづき）

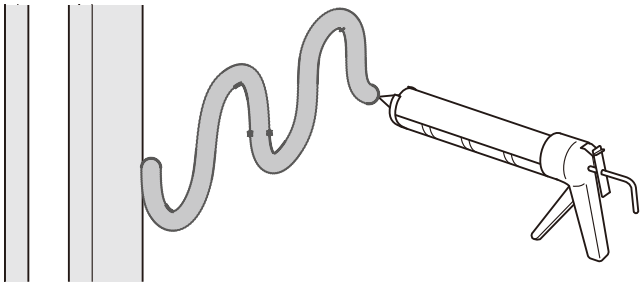
6-2　接着剤塗布～タイル張付け・目地直しまでの作業時間

ポイント

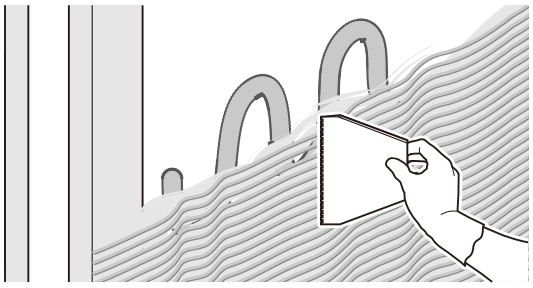
- 接着剤を塗布してからタイルの張付け・目地直しまでの作業は下記の時間内に行なってください。
- 作業時間は、環境条件により変動する場合があります。
- 冬季の作業は5℃以上で行なうようにしてください。5℃を下回る環境では接着剤の硬化が遅くなります。



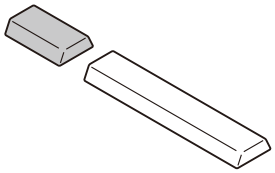
接着剤塗布：壁面塗付け



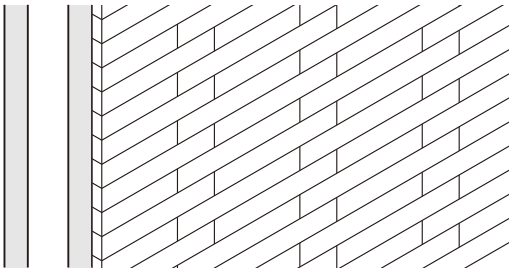
接着剤塗布：クシ目立て



タイルの切断加工（必要に応じて）

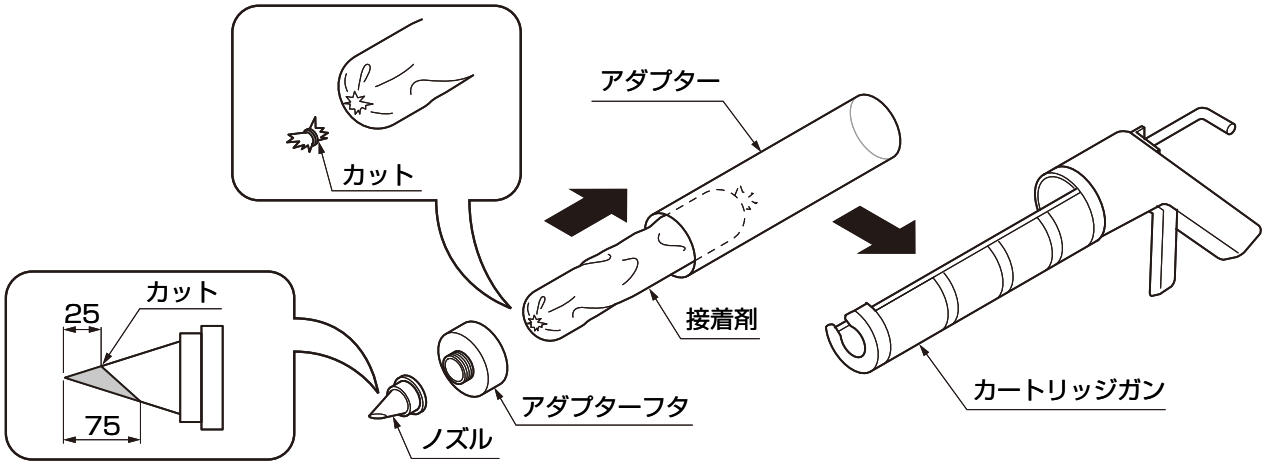


タイルの張付け・目地直し



6-3 接着剤塗布

（1）カートリッジガンの準備



①ノズルの先端をカットしてください。（上記寸法は目安です。）
②接着剤の先端をカットして、アダプターに挿入し、アダプターフタとノズルをはめてください。
③アダプターをカートリッジガンに取付けてください。

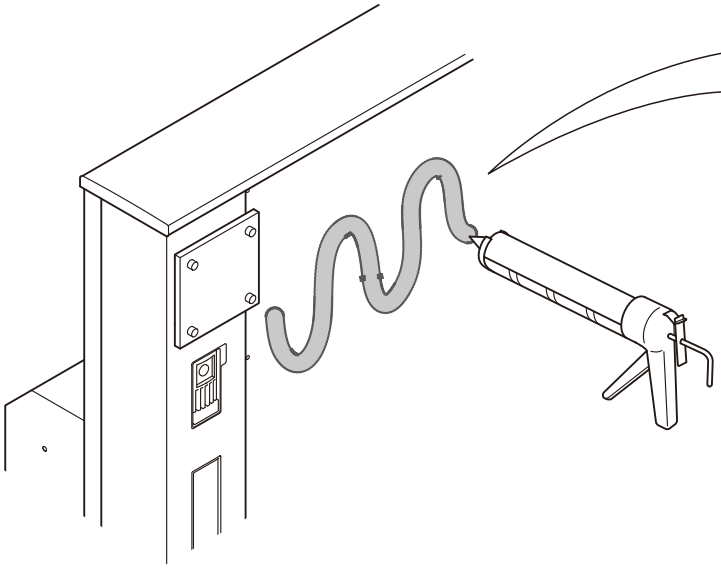
（2）壁面塗付け

注 意

●作業時には、手袋・長袖等を着用して皮膚を保護してください。
※本接着剤は体質によっては、まれにかぶれる場合があります。

ポイント

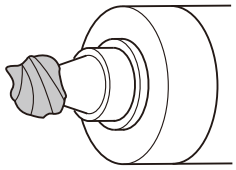
●接着剤塗布からタイルを張付け終えるまでの時間が、指定の作業時間内に納まるよう接着剤塗布の範囲を区切りながら作業を行なってください。



ポイント

●ビード状に塗布してください。
・使用量目安:0.75㎡/本（1.5kg/㎡）
●ノズルの開口面を壁面に密着させながら接着剤を塗布してください。

補 足



●作業を中断する場合、ノズル先端の接着剤をふき取り、ビニールテープなどで覆ってください。

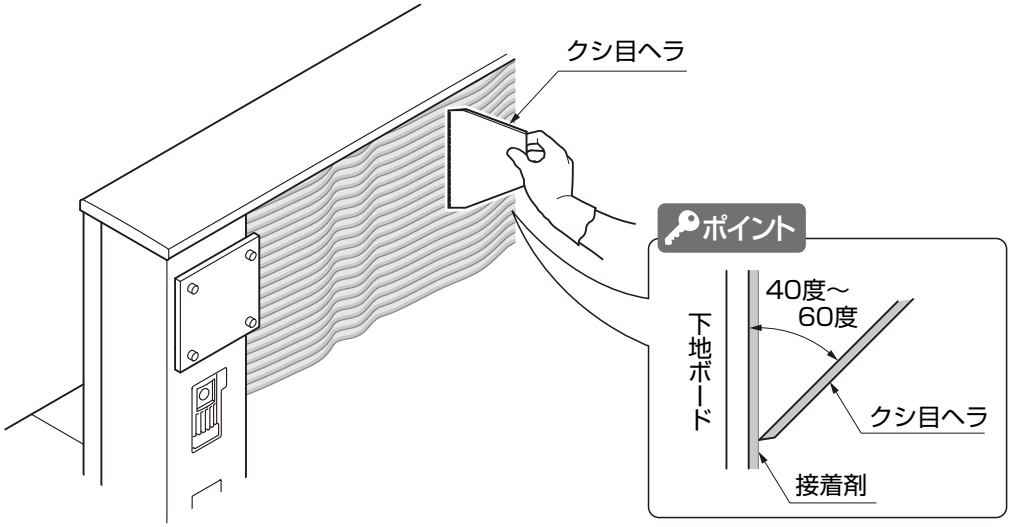
①接着剤を下地ボードに塗布してください。

6.（つづき）

（3）クシ目立て

ポイント

●他部材に接着剤が付着した場合、すぐにふき取ってください。
●クシ目はかならず3mmのクシ目ヘラを使用してください。
3mm以上のクシ目を立てると、接着剤の量が多くなり接着不良の原因となります。



①クシ目ヘラ（またはクシ目コテ）を使用し、接着剤をかき取るようにしてクシ目を立ててください。

ポイント

●かき取りはヘラを40度～60度程度に傾けて、下地が透けない程度にかき取ってください。

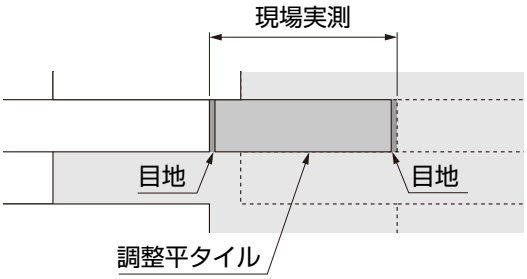
6-4　タイルの切断加工　※加工が必要な場合の作業です。

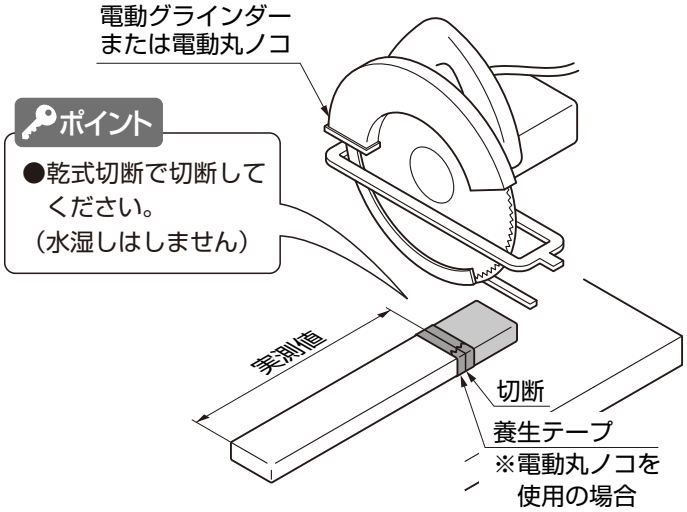
ポイント

●P.44「タイル割付図」に記載の「タイル切断目安寸法」も併せて参照してください。

ポイント

●タイル同士の目地幅、他部材とのすき間（1～2mm）を含め実測してください。





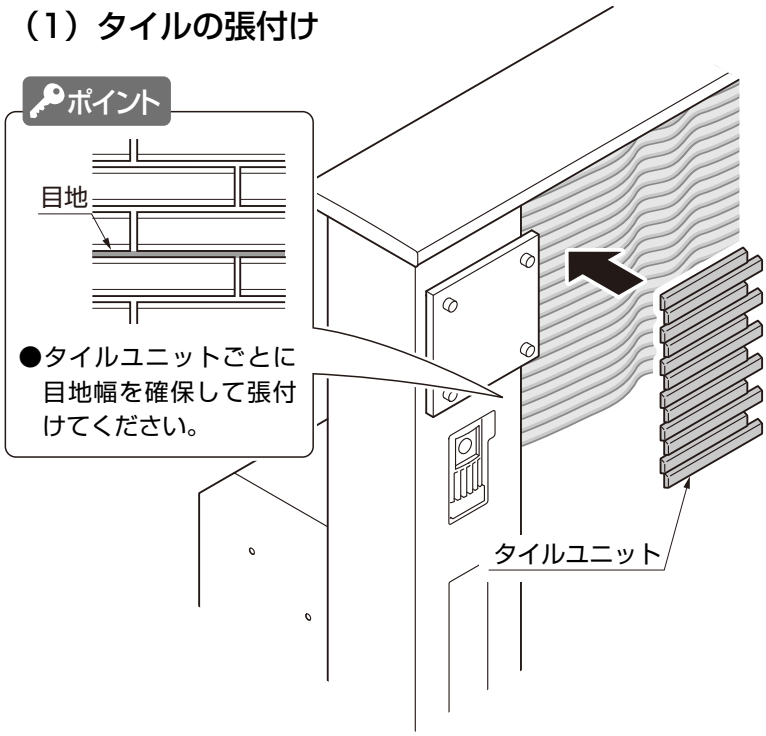
注 意

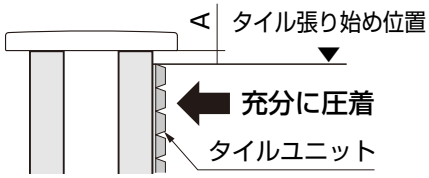
●タイルの切断面は鋭利になっているので触れないでください。ケガをするおそれがあります。

①加工が必要な場合はタイルを切断してください。

6-5 タイルの張付け

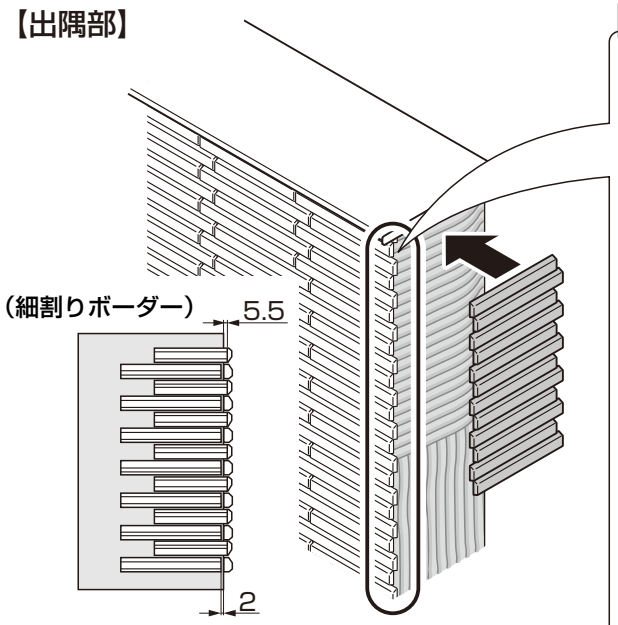
（1）タイルの張付け



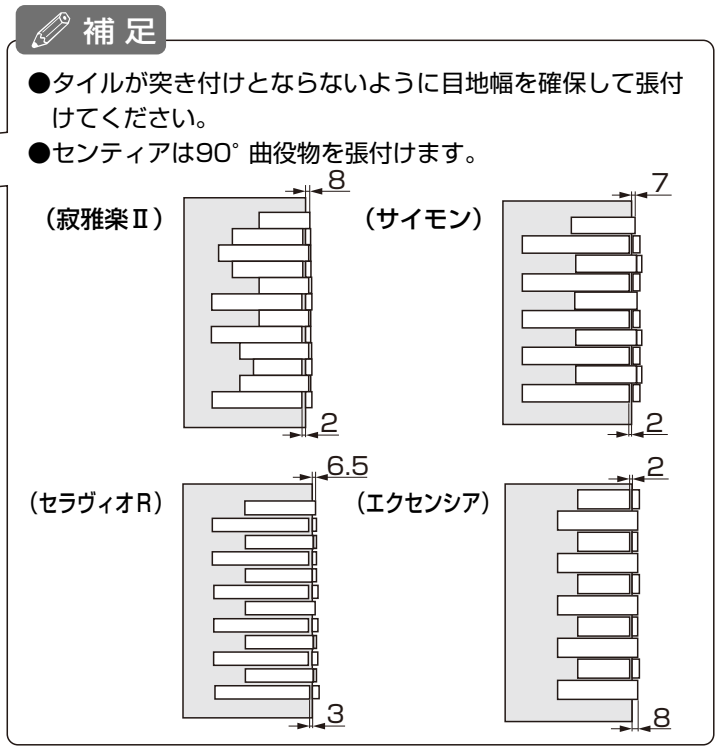


商品名	A
寂雅楽Ⅱ	3.0
細割ボーダー	0.0
サイモン	3.0
センティア	0.0
セラヴィオR	2.0
エクセンシア	2.0

【出隅部】



①タイルユニットを張付けてください。



ポイント

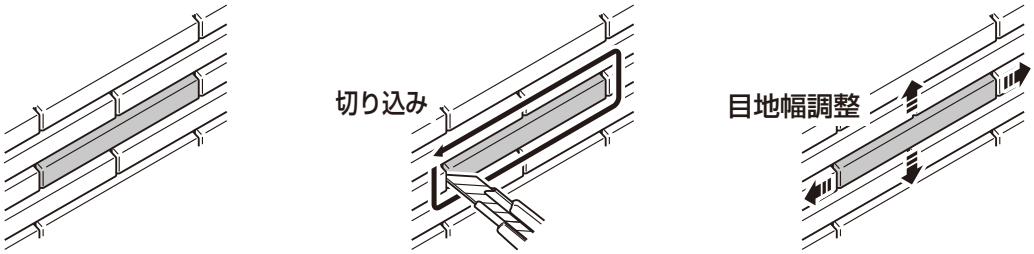
●タイル目地部から接着剤がはみ出す場合は、接着材の塗りすぎであるため再度クシ目ヘラ（コテ）でかき取ってください。
●下地ボードの面取部にも接着剤を十分に充填してください。
●やむを得ずタイル張りを中断する場合は、接着剤を塗布した範囲を張り終えてから中断してください。

6.（つづき）

（2）目地直し

ポイント

●指定の作業時間内で作業を完了させてください。



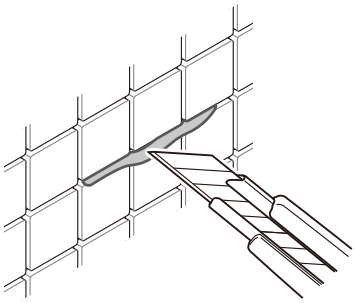
①タイル周囲の目地に切り込みを入れてください。
②タイルの目地幅を調整してください。

7. 目地詰め

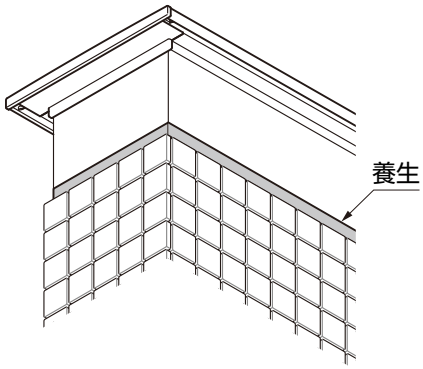
ポイント

●接着剤が硬化したことを確認の上、作業を行なってください。

7-1　接着剤の除去と養生

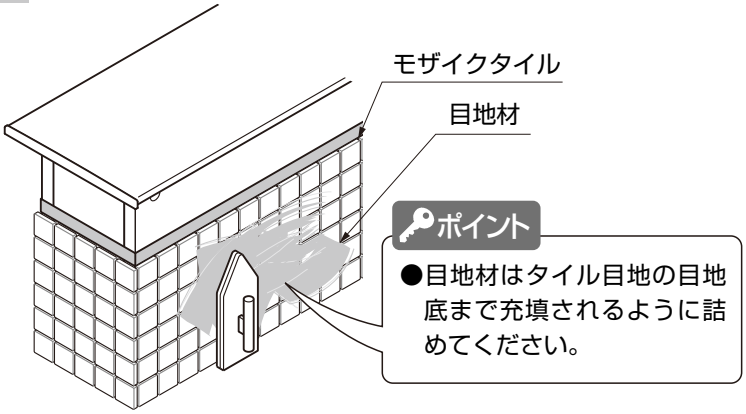


①タイル目地部の接着剤のはみ出しを除去してください。

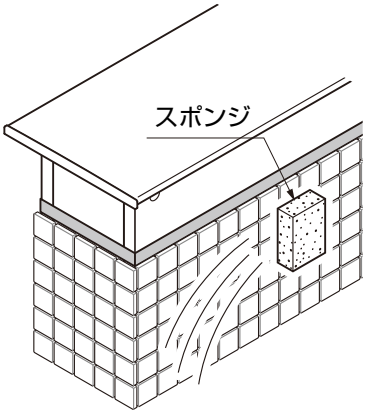


②目地詰めする周囲を養生してください。

7-2　目地詰め



①ゴムコテにて目地材を詰めてください。



②目地詰め後、スポンジで拭き仕上げをしてください。

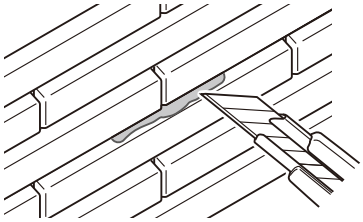
8. 点検・仕上げ

ポイント

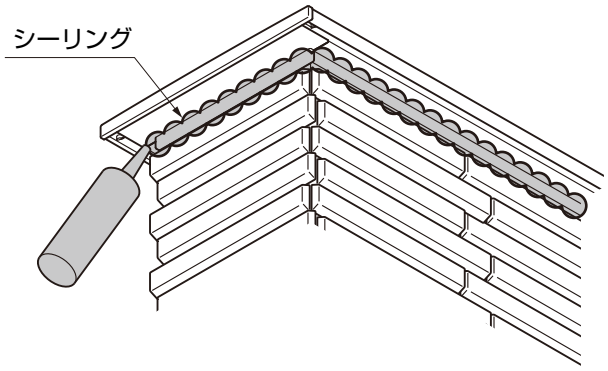
●接着剤・目地材が硬化後、仕上がりの点検を行なってください。

はるかべ を施工の場合

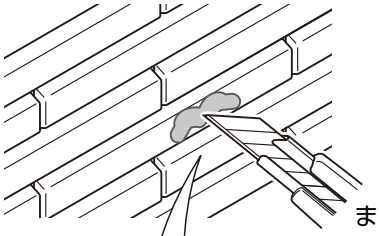
●タイル目地部からの接着剤のはみ出しを除去する



●必要箇所にシーリングする



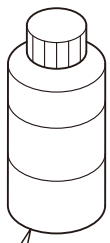
●表面に付着した接着剤を除去する



砂消しゴム

または

取れない場合は…



溶剤
（アセトン・シンナー）

ポイント

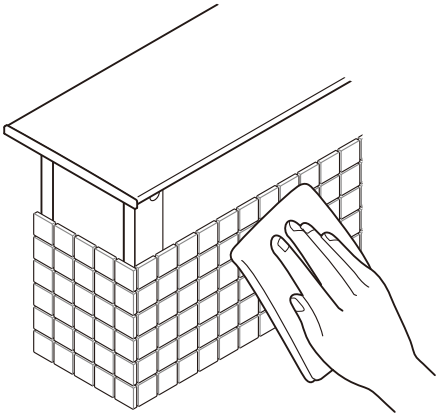
●表面をキズ付けないようにしてください。

ポイント

●他部材に使用する際は、事前に変色・変質確認をしてください。
●溶剤の取扱いには十分に注意してください。

モザイク を施工の場合

●タイル表面の汚れをふき取る



ポイント

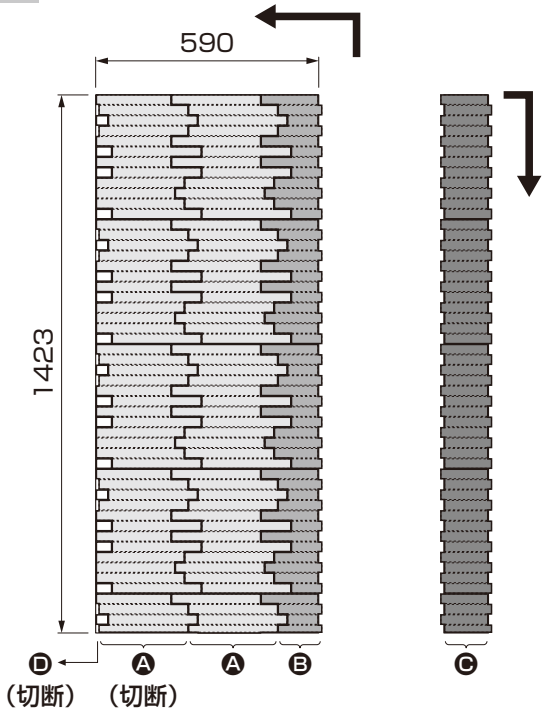
●ウエスなどで乾拭きしてください。

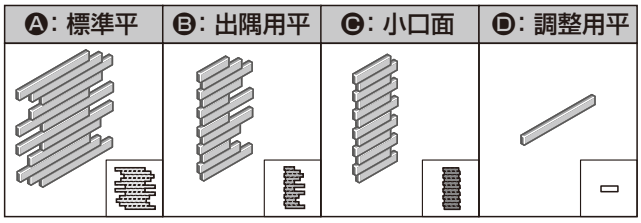
9. タイル割付図

ポイント

●ファンクション部は省略しています。
●切断加工寸法はあくまで目安です。実際に施工する部分の寸法を確認の上、加工してください。
●壁面裏側も同様に施工してください。
※タイルユニットをカットする際は、タイルの配列（目地位置）に注意してください。
（下記イラストを参照してください。）

9-1 寂雅楽Ⅱ



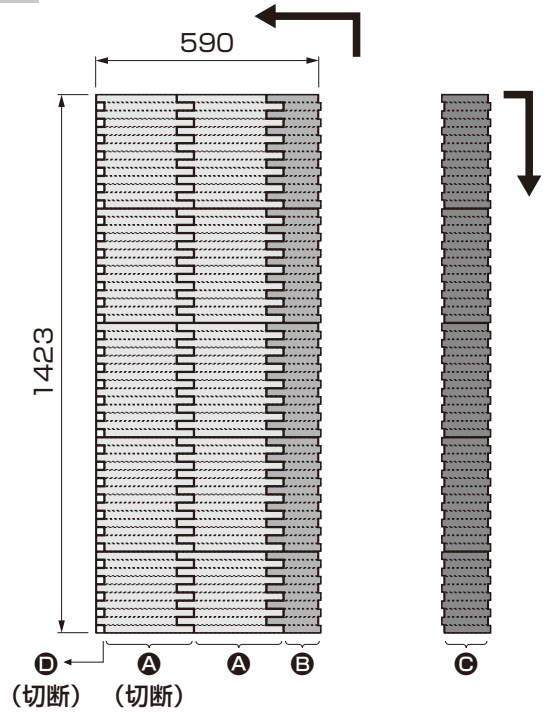


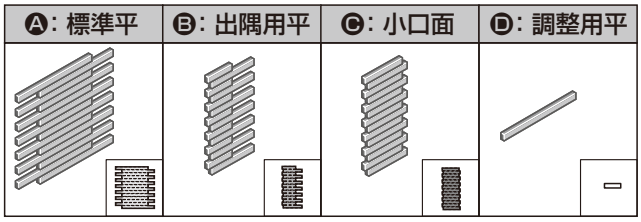
←：タイル張り方向

表9-1

	切断目安寸法
Ⓐ: 標準平	277
Ⓓ: 調整用平	30、40

9-2 細割ボーダー





←：タイル張り方向

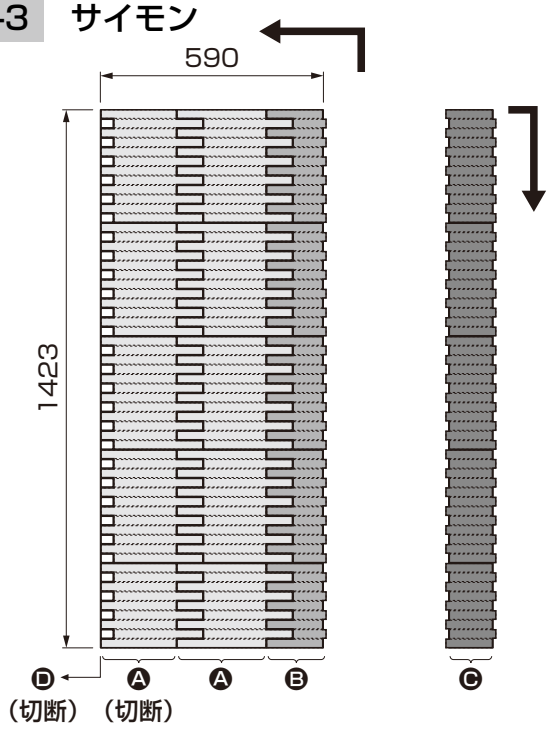
表9-2

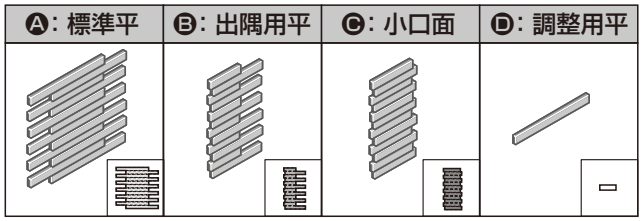
	切断目安寸法
Ⓐ: 標準平	257
Ⓓ: 調整用平	20

ポイント

●ファンクション部は省略しています。
●切断加工寸法はあくまで目安です。実際に施工する部分の寸法を確認の上、加工してください。
●壁面裏側も同様に施工してください。
※タイルユニットをカットする際は、タイルの配列（目地位置）に注意してください。
（下記イラストを参照してください。）

9-3 サイモン



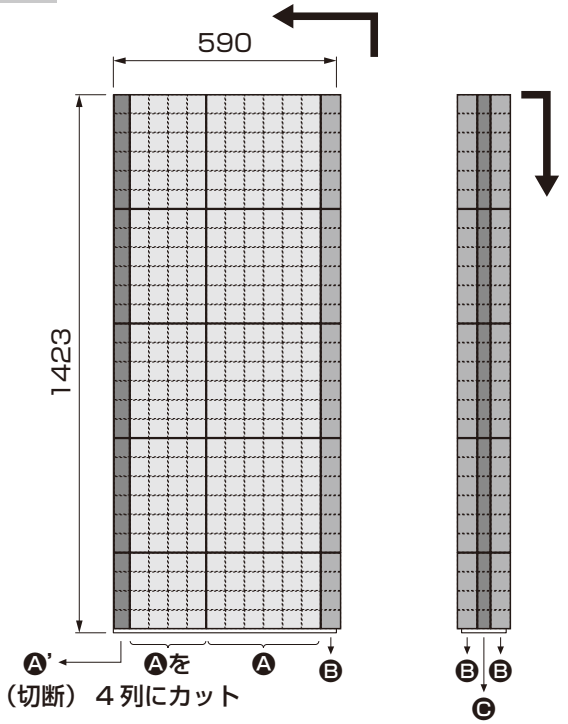


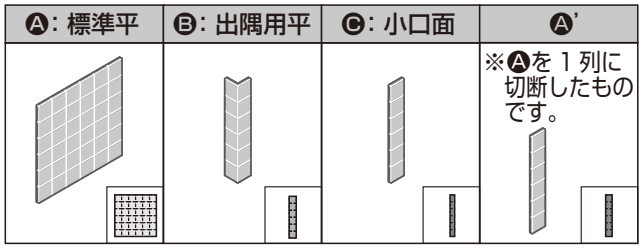
←：タイル張り方向

表9-3

	切断目安寸法
Ⓐ: 標準平	269
Ⓓ: 調整用平	32

9-4 センティア





←：タイル張り方向

表9-4

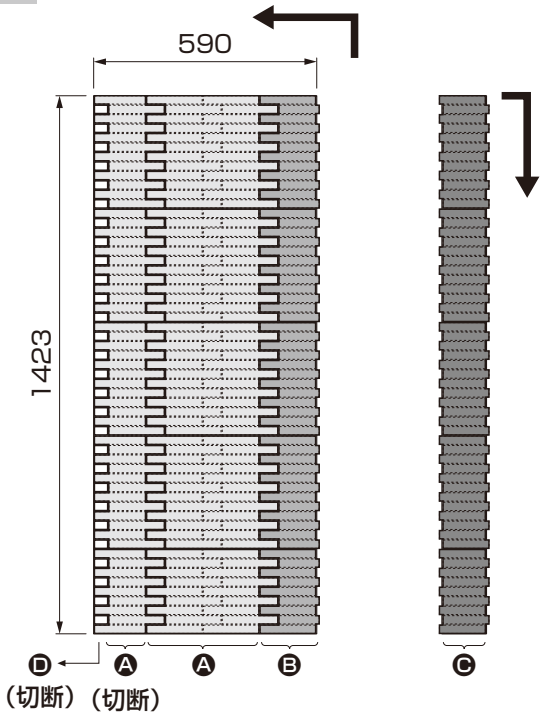
	切断目安寸法
Ⓐ'：Ⓐ１列	40.5

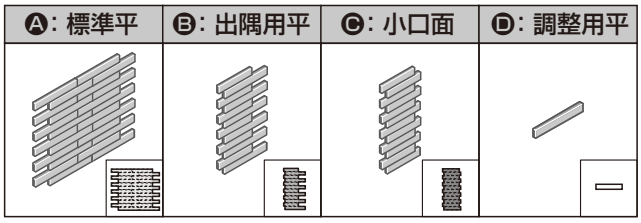
9.（つづき）

ポイント

●ファンクション部は省略しています。
●切断加工寸法はあくまで目安です。実際に施工する部分の寸法を確認の上、加工してください。
●壁面裏側も同様に施工してください。
※タイルユニットをカットする際は、タイルの配列（目地位置）に注意してください。
（下記イラストを参照してください。）

9-5 セラヴィオR



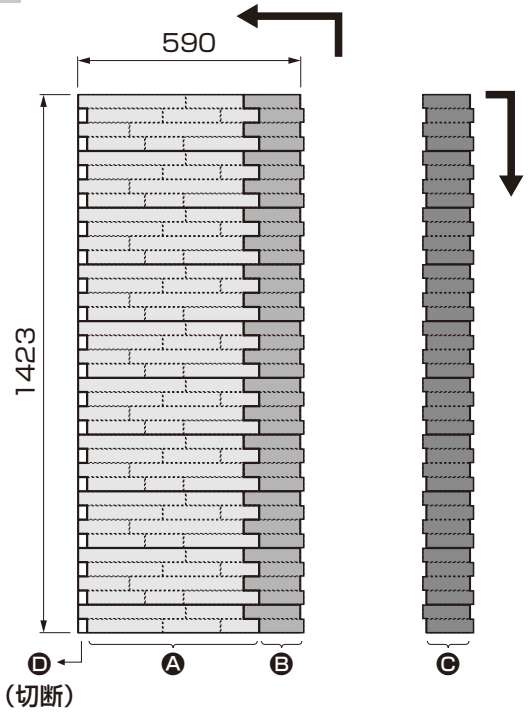


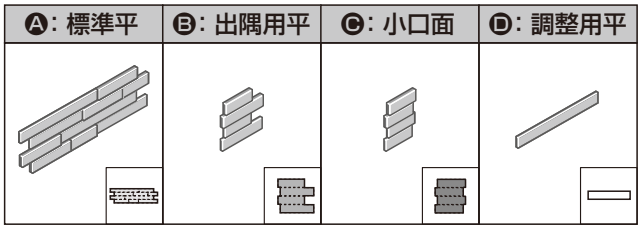
←：タイル張り方向

表9-5

	切断目安寸法
Ⓐ: 標準平	185
Ⓓ: 調整用平	–

9-6 エクセンシア





←：タイル張り方向

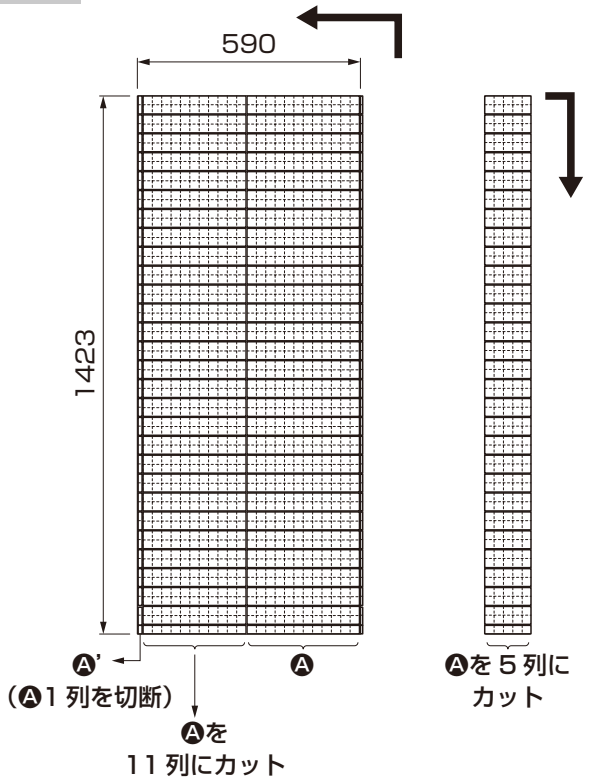
表9-6

	切断目安寸法
Ⓐ: 標準平	477
Ⓓ: 調整用平	22

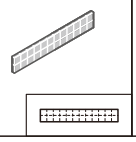
ポイント

●ファンクション部は省略しています。
●切断加工寸法はあくまで目安です。実際に施工する部分の寸法を確認の上、加工してください。
●壁面裏側も同様に施工してください。
※タイルユニットをカットする際は、タイルの配列（目地位置）に注意してください。
（下記イラストを参照してください。）

9-7 ニュアンス・シェブレンド



ニュアンス
シェブレンド

Ⓐ: 標準平	Ⓐ'
	※Ⓐを 1 列に切断したものです。

← ：タイル張り方向

表9-7

	切断目安寸法
Ⓐ' :Ⓐ1 列	10.5

7　仕上げの施工:塗り仕上げ

1-1　塗り仕上げの工法および推奨材料

※工法は本取説の内容にしたがってください。
※推奨材料は「エスケー化研（株）ベルアート」です。

⚠注意

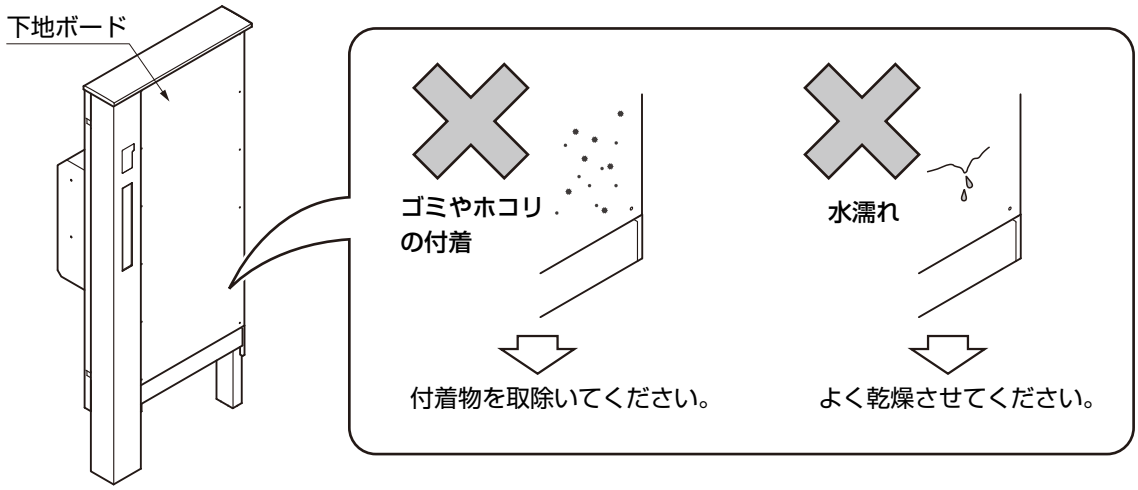
●推奨材料以外は使用しないでください。コーナー部などにクラックが発生するおそれがあります。

1-2　塗り仕上げの手順

※使用する材料については、すべて現場手配となります。使用材料は下記のとおりです。

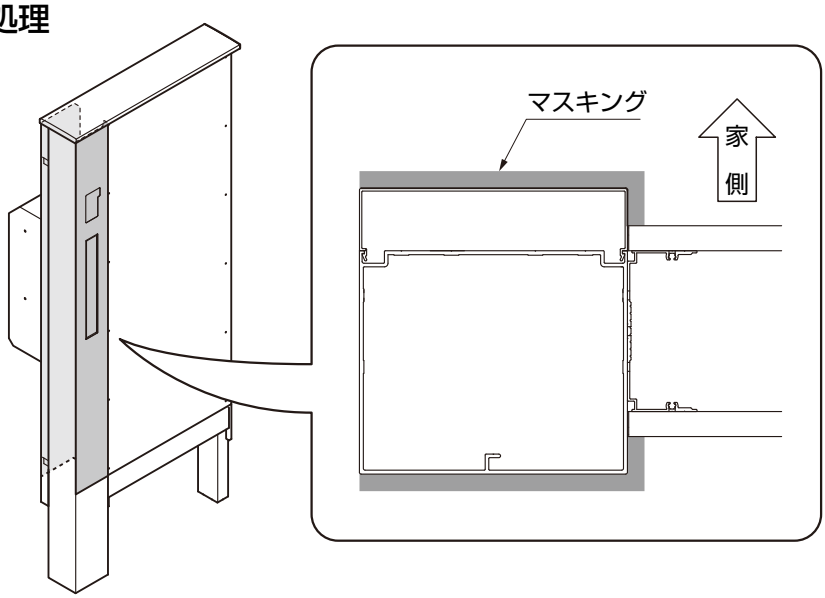
●ジョイント部処理：SK弾性コークN（SK弾性プライマー同梱）
　　SKハードクロス＃50
●ベルアート塗り　：SK水性弾性シーラー
　　ベルアート

（1）施工面の確認



①下地ボードの表面を確認してください。

（2）マスキング処理



①図を参照し、マスキング処理をしてください。

（3）塗り仕上げ　※ベルアート塗りの詳細については「エスケー化研（株）」の施工要領書をご覧ください。

ジョイント部およびアルミ形材部等の処理

①SK弾性コークNプライマーの塗布
塗布場所：アルミ形材50×90柱、下地ボード固定ネジ頭
調整金具ピースカバー下地（120角門柱の場合）

↓

②SK弾性コークNの塗布
塗布場所：アルミ形材50×90柱、下地ボード固定ネジ頭
調整金具ピースカバー下地（120角門柱の場合）

↓

③SKハードクロス＃50の貼付け
貼付け場所：50×90柱と下地ボードのジョイント部

↓

④SK弾性コークNの塗布
塗布場所：アルミ形材50×90柱、下地ボード固定ネジ頭
調整金具ピースカバー下地（120角門柱の場合）

→

ベルアート塗り（※）

⑤SK水性弾性シーラーの塗布

↓

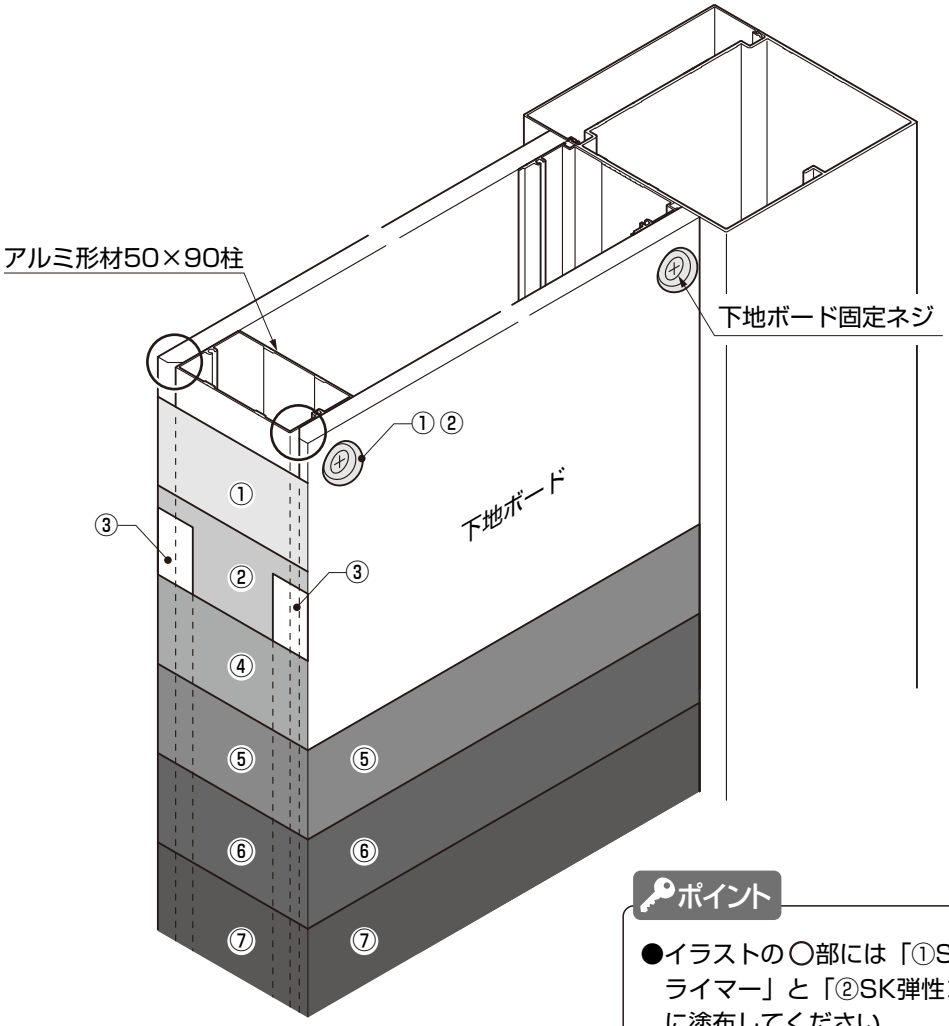
⑥ベルアートの塗布（基層塗り）

↓

⑦ベルアートの塗布（模様塗り）

↓

完了



ポイント

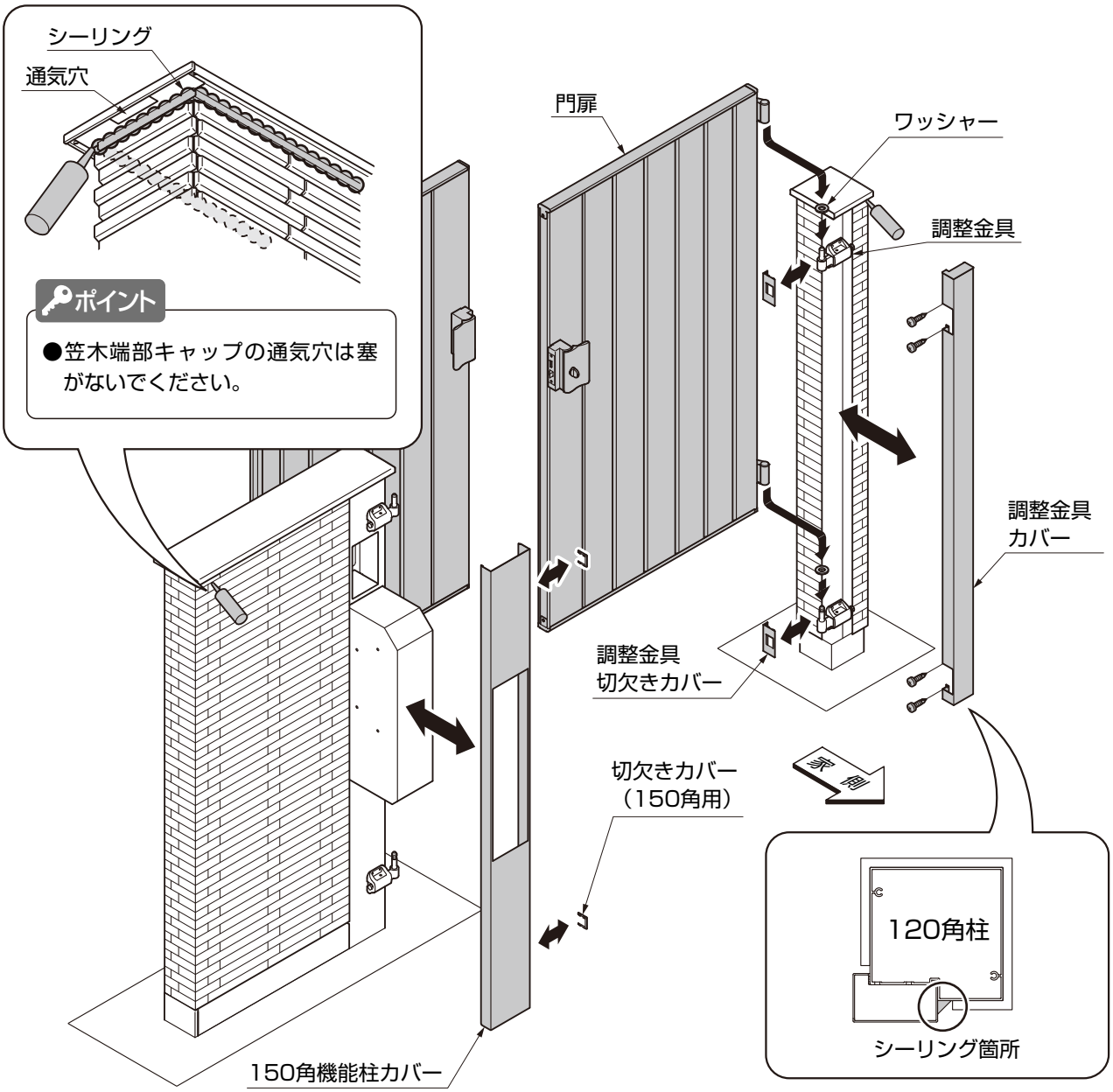
●イラストの〇部には「①SK弾性コークNプライマー」と「②SK弾性コークN」を十分に塗布してください。

①塗り材を施工してください。

8　門扉の吊込み　※門柱仕様の場合の作業です。

ポイント

●タイルの施工が完了した後に、門扉の吊込みを行なってください。
●門扉の吊込み手順、調整金具の調整方法は、門扉に付属の取付説明書をご確認ください。



①本体ユニットの150角機能柱カバー、120角門柱の調整金具カバー（あるいは調整金具ピースカバー）を外してください。
②ワッシャーを調整金具に取付け、門扉を吊り込んでください。
③調整金具を調整してください。
④①で外したカバーを取付けてください。
⑤調整金具カバー、笠木ベースの指定の箇所をシーリングしてください。

ポイント

●メンテナンス時に調整金具カバーを外す場合は、シーリングをカットし、メンテナンス後に再度シーリングしてください。

メモページ

取説コード
B079
JZZ626840C
201405A_1039
201512D_1049